

令和6年度

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

活動報告

令和6年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク 活動報告

①活動報告

- ・部会1・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～ 7
- ・部会2・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～13
- ・部会3・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～22
- ・部会4・・・・・・・・・・・・・・・・ 23～30
- ・特別講演・・・・・・・・・・・・ 31～44

②事後意識調査アンケート結果

・・・・・・・・ 45～48

③部会員・アドバイザーアンケート調査結果

・・・・・・・・ 49～54

ウェルビーイングを叶える 「おもい」の表出とつながり

「思い」と「想い」のちがいを考えたことがありますか？

令和7年
1/25 (土)
14:00～16:00



ほんとうの
気持ちを
知(り)え(る)
ため(に)
どうし(やう)

豊田加茂ウェルビーイングネットワークとは
豊田加茂ウェルビーイングネットワークの活動は、病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階において意思決定が困難になった状況においても、本人が、本人らしい選択ができ、幸せ、生きがいを感じ、尊厳をもって人生を全うすることができる地域となることを目指します。

会 場

豊田加茂医師会館2階講堂
豊田市西山町3丁目30番地

参加費
無料

申込みは
裏面

講 演

『人生の最終ステージにおけるウェルビーイングを目指して
～「わたしの物語」に耳を傾け、皆で支える～』
みよし市民病院 事業管理者 成瀬 達先生

事例報告

事例1 「おもいがつながった事例」

居宅会議支援事業所 JO・さざんか 須藤 亜美氏

事例2 「おもいが変わっていく事例」

(有)トータルオフィスヘルパーステーションここみ 久野 杜紀子氏

事例3 「おもいを聴いて・つながり・つなげた事例」

訪問看護ステーション愛心 松井 訓代氏

グループワーク 「おもいを聴き」・「つながり」・「つなげる」
ために大切な事

問合せ先

豊田加茂医師会 事務局 ☎ 0565-33-7773

↓お申込みはこちら



～豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会①部会委員～

部会長	松井 訓代	豊田市介護サービス機関連絡協議会	訪問看護部会
副部長	名取 彩実	愛知県医療ソーシャルワーカー協会	西三河北部ブロック
副部長	長沼 隆輔	豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会	
副部長	殿内 勝夫	豊田市地域自立支援協議会	
	井戸 登姿美	みよし市訪問看護	
	久野 杜紀子	みよし市訪問介護	
	須藤 亜美	豊田市介護サービス機関連絡協議会	ケアマネジャー部会
	花見 雅子	愛知県老人保健施設協会	

アドバイザー
豊田加茂薬剤師会
上池俊一郎
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
三井克哉

令和6年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

【部会①】「老い・病と共に生きる～緩和ケア・看取り～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和7年1月25日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（後日視聴可）
- ・司会進行 平吹広一副会長 部会①部会員 花見雅子氏
- ・挨拶 加藤真二会長
- ・講師 みよし市民病院 成瀬達先生 豊田市特別養護老人ホーム施設長会 三井克哉氏
- ・閉会挨拶 平吹広一副会長
- ・テーマ 「ウェルビーイングを叶える「おもい」の表出とつながり」
- ・講演 テーマ『人生の最終ステージにおけるウェルビーイングを目指して
～「わたしの物語」に耳を傾け、皆で支える～』
講師 みよし市民病院 事業管理者 成瀬 達 先生
- ・事例発表 介護支援専門員 / 訪問介護員 / 訪問看護師
- ・グループディスカッション
 - ①発表の事例について「ご本人・ご家族のおもい」はどうだったのでしょうか
 - ②講演・事例発表を聞き、皆様の現場でのご自身のかかわりを振り返って、「本人の「おもいを聴き」・「つながり」・「つなげる」ために大切なことは
- ・参加者 会場 76名 オンデマンド視聴 9名 計85名
- ・会場参加者内訳 医師9名、その他、MSW、保健師、看護師、ケアマネジャー、管理栄養士、理学療法士・作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、特養施設長、行政等
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 29名／76名（回答率：38.1%）

【アンケート結果】

1 本日の研修での最も大きい学び、気づきは何ですか

- ・みなさんががんばっていること
- ・百人いたら百の物語がある。人生の最後にかかわらして（最後の1行、1章）いただく黒子に徹することの大切さ
- ・先生の話から関係作りは期間ではなくどう向き合うかだと感じました 又、事例を通し関わり方を考える機会になりました
- ・本人を支援してくれる人を探す事が大切
- ・おもいをくみとりたいという自分のおもいが大切という考え
- ・熱意を持つことは、大切 本人のおもいを聞き出すことの難しさを感じました
- ・本人のおもいについてどう私たちが聞き取り、感じとれるかをしっかり感じることができる機会となりました
- ・人生はストーリー その人のストーリーをケアの中で考えていく
- ・本人や家族の想いに耳を傾け、共有することが大切だと思いました。
- ・本人主体で最期までどう生きたいかという視点を待ち支援を行う。本人や家族、支援者が同じ方向を向く。
- ・想いを知る事は、信頼関係を築く事が最重要である
- ・本人、家族の思いを傾聴し、チームで情報共有し支援する

- それぞれの物語を生きてきた想いがあること
- 個人の意志確認を伝える
- 聴く つながる つなげる
- 信頼関係構築と本人の思いを聴く
- 聴く チカラ、そこから、気づきを、共有、信頼関係につながる
- 本人様の「おもい」を聞き、自分のエゴを伝えないことの大切さを改めて学びました
- 患者様。家族の本意に気づくための言動、行動
- 寄り添う専門職の支援
- 隠れている想いを引き出せるような接し方を考える
- 本人の表出について
- その人に合わせたコミュニケーションの工夫が大切だと感じました
- 残された人(Fa)の満足感も大切(大橋巨泉さんの妻の話)
- 熱意
- 発表者の熱意、ひたむきさ、相手を尊重している〇
- 確認したおもいをチームで情報共有し、統一したケアを行うことの必要性。
- チームで関わる、チームで共有する
- 一瞬一瞬を熱意をもって関わる。気づける人に

2 研修内容はどのように実務に役立ちそうですか

- 多職種の連携
- 想いを大切にしていくことの再確認
- 今後の関わりに生かしたいと思います
- 本人達と支援者のおもいが違っている事が多いのでどうやって寄りそっていくか
- 毎日の業務に不可欠と考えます
- 日ごろの実務1場面1場面で活かしていけると強く思いました
- はい、普段のケアの中からお本人の意思を引き出していけるようなかわりをしていきます
- 役立つと思います。
- 本人、家族のおもいを聴く、繋げる。
- 本人の想いを感じとる努力を続ける
- 傾聴、情報共有
- 自身の想いが反映されたきき方をしていることを自覚しながら関わっていきたいと思いました
- 個人の意志確認をしっかり行う 信頼関係をとりながら
- 退院支援で役立つ チーム医療
- 本人の想いを聴く-つなげる-つなげる
- 傾聴 共感 信頼関係の構築から本人を理解していく
- さらなる寄り添い
- 患者の希望の聞き出し方
- 多職種の役割と関係
- 医療職として人を思いやる気持ち
- 今後の患者対応
- 利用者との関係構築や多職種との顔の見える関係づくりを日頃から行う。
- 「想い」を話していただけるように関わり、話していただいた時にしっかり受け取る

3 研修を受けて、実務において何を実践しますか

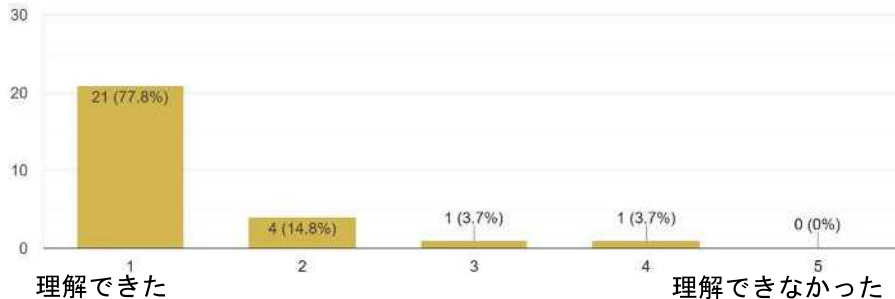
- コミュニケーション
- 信頼関係の大切さ、人として誠実に接していきたい
- ACPに活用していきたいと思います
- おもいをきくこと
- おもいによりそうという気持ち
- 傾聴することをチームで学んでいきたい
- ”おもい”ご本人、ご家族がどうおもっているか考えたいと思います
- ご本人やご家族との関わり方、ケアの中でもゆつくりと耳を傾けていきます。
- 色々な場面で、想いの確認をしたいです。
- 本人の気持ちを汲み取り、穏やかな気持ちになれるような関わりを待つ。
- 思いが表出できるような関係をつくるよう努める
- 多職種でそれぞれの思い、思いを共有していきます
- エンディングノートの活用
- チーム 連携
- 今、本人と作成中のエンディングノートを完成する
- 本人の想いの共有を関係者とネットワークにつなげる
- 本人様のおもいを聞いて、カルテに残す
- 初心に帰り、五感を傾ける
- ゆつくりとした聞き取り。信頼関係の構築。
- 訪問診療につなげる
- 誠実に支援に向き合う
- 入院時 ICに立ち合う時のFaの方向性の確認と個別RH時にPt.の方向性の確認・傾聴
- 患者から聞く
- 利用者との関係構築や多職種との顔の見える関係づくりを日頃から行う。
- 支援者側の物語のシナリオも利用者、家族へ時として伝える必要があること
- 熱意を忘れずに。抽象的にみれるように。つなげる

4 学んだこと、やろうとしていることに障害はありますか、それは何ですか

- キーパーソンの認知低下と易怒性UPでサービスがなかなか入れられない
- 「自分ならと考えてしまうこと」
- 熱意を持った人ばかりではないと思うので、そのような職員にどう伝えていけばいいかわかりません
- 障害はなく、私たちがどう動いていくかだと思います。1つずつやっていきたいです
- 他の職員との共有 障害ではありません
- 認知症の方や障害の方など、本人の意志確認が難しい方の想いの確認は難しいと思います。
- 認知症の方や自分のおもいを表現できない方に対して、おもいを想像することはできるが、本当の気持ちを聴くということが難しい。
- 認知症の方へのアプローチ
- 自分の自身のスキルがない
- 職種についても熱量が違うことがある
- 認知や障害で発語がない方に対しておもいをなかなか聞くことができないこと
- 時間、但し1人ずつ、一つずつをわすれず

- 病院でしっかりとご家族や本人に説明をして欲しい。
- 前向きに取り組んでいます
- 仕事の時間に追われていると雑になりそう、余裕があれば
- 自分の力の客観的評価が得られない、ひとりよがりになっていないか。不安と葛藤。

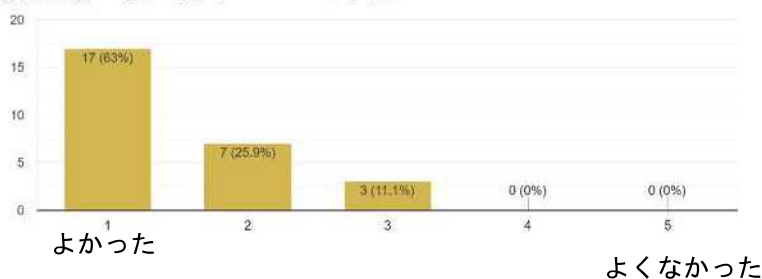
5 本日の研修内容の理解度はいかがでしたか



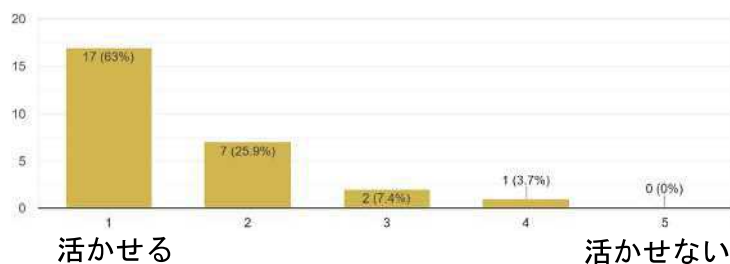
その理由

- 良く準備されていた
- もう少しゆっくりディスカッションしたかった
- 資料分かりやすかったです 成瀬先生のお話が分かりやすかったです
- 流れがしっかりとできていたので、分かりやすくて良かったです。内容も良かったです。
- 事例をあげ、本人や家族、支援者の関わり方やおもしろい分かりやすかった。
- 各発表の方々の現場の努力が伝わりました
- とても分かりやすかったです
- 想いを聞き出し、想いを繋げることの大切さを学んだ
- 日頃の業務の中での自分をふり返ることができた。事例が良くまとまっていてわかりやすい
- 事例をしっかりまとめてくれてあったから
- それぞれの発表者の熱い想い、行動がなにより響いた
- 関わった中では看取りの段階で希望を言われることの方が少ない。また急変することが多い。
- 具体的な支援を知ることができた
- 丁寧な説明だった
- 見やすい、わかりやすい

6 研修全体の進め方はいかがでしたか



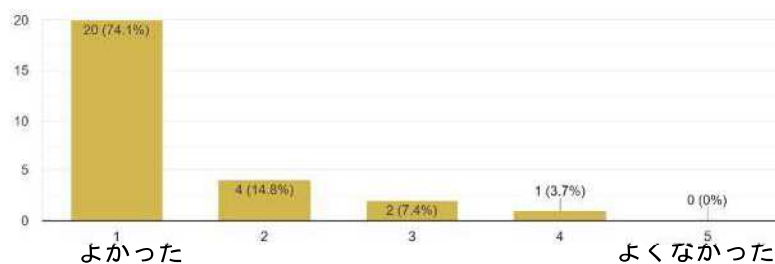
7 本日の研修は業務上活かせるような内容でしたか



その理由

- ・話をよくきくこと
- ・日々の業務に必要なしせいを学べた
- ・看多機で、看取りも行っていくので、また、認知症の方との関わりも多いため
- ・職場の委員会で伝えます
- ・今回の事例が、在宅でご自分の意思を表出できる方のため、施設で暮らされる方との違いを感じました。
- ・想いを感じとれるよう努力します
- ・本人、家族が表出して頂けるよう関わりを持つ時にいかせたらと思いました
- ・傾聴や共感的になること
- ・活かしていけるように努力します。元気なうちから、想いを聞けるよいにしていきたいと思ます。
- ・自分の仕事は他職種との関係ネットワークをつなげる役割と思うから
- ・終末期の病院で勤務しているため、本人様のおもいに対するサポートの方法を知ることができた
- ・多職種と更に共同できる
- ・丁寧な支援
- ・自分に足りないものを気づき、活かしたいです

8 本日の研修の満足度はいかがでしたか



～幸せのために食べる～

『本人の食いたい』を地域で支える
実例を学べる勉強会

令和6年12月21日（土）
15：00～17：30
（開場14：30）
参加費無料

本人の想いを聴く
つながる
つなげることの大切さ

豊田加茂ウエルビーイングネットワークでは、病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階においても、本人が、本人らしい選択ができ、幸せ、生きがいを感じ尊厳をもって人生を全うすることができる地域となることを目指します。



会場

豊田加茂医師会館2階講堂とオンライン（ZOOM）
豊田市西山町3丁目30番地1

研修概要

講演

「在宅から食べるを支える
～食べる力を見つけて伸ばす訪問歯科～」

講師 あい訪問歯科クリニック 一瀬浩隆先生



あい訪問歯科クリニック
院長 一瀬 浩隆先生

事例発表

発表者 歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士・ケアマネジャー
グループディスカッション（事例を踏まえて幸せのために食べるについて意見交換）
【会場参加者およびオンライン参加者】
会場先着100名
（オンライン参加の方は、グループディスカッション視聴のみも選択可能です）

申込方法

Googleフォーム（裏面のQRコードをご利用下さい）またはFAX

主催 豊田加茂医師会

～豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会②部会委員～

部会長	川瀬 文哉	豊田市保健所管内栄養士連絡会
副部長	柘植 健史	豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
	山田 剛敬	豊田加茂歯科医師会
	松井 恵美	愛知県歯科衛生士会豊田みよし支部
	立花 望	みよし市デイサービス
	安田 雅一	みよし市ケアマネジャー
	鈴木 順子	豊田市介護サービス機関連絡協議会訪問介護部会
	近藤 千尋	愛知県老人保健施設協会
	和田 明美	豊田市地域包括支援センター
	坂田 彩夏	豊田市療法士会



アドバイザー
豊田加茂歯科医師会
加藤 勇
松岡 永治
特別養護老人ホーム施設長協議会
三井 克哉

令和6年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
【部会②】「食べる ～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和6年12月21日（土） 15時から17時30分まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（講演のみ当日と後日視聴可）
- ・司会進行 平吹広一副会長 部会②副会長 柘植健史氏
- ・挨拶 加藤真二会長
- ・講師 豊田加茂歯科医師会 加藤勇先生 豊田市特別養護老人ホーム施設長会 三井克哉氏
- ・閉会挨拶 平吹広一副会長
- ・テーマ 「～幸せのために食べる～「本人の食べたい」を地域で支える」
- ・講演 テーマ「在宅から食べるを支える ～食べる力を見つけて伸ばす訪問歯科～」
講師 あい訪問歯科クリニック 一瀬 浩隆 先生
- ・事例発表 歯科医師 / 歯科衛生士 / 言語聴覚士 / ケアマネジャー
- ・グループディスカッション
 - ・感想の共有
 - ・「聴く」「つながる」「つなげる」の現場での課題
 - ・自身の立場でウェルビーイングに向けてできること
- ・参加者 会場 57名 ライブ視聴 44名 オンデマンド視聴 44名 計145名
- ・会場参加者内訳 医師9名、その他、MSW、保健師、看護師、ケアマネジャー、管理栄養士、理学療法士・作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、特養施設長、行政等
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 21名／57名（回答率：36.8%）

【アンケート結果】

1 本日の研修での最も大きい学び、気づきは何ですか

- ・本人・家族の思いを聴く つなげる あきらめない 刺激・ヒントになる キーワードがたくさんありました
- ・最後まで食べる幸せをサポートしていく大切さ
- ・「生きるために食べる」と「幸せのために食べる」があるということ
- ・あきらめない 聴く-つながる-つなげる大切さ
- ・入れ歯を入れればたべれるのではなく、歯入れるための準備があることが知れたこと
- ・本人の意志を尊重する重要性
- ・相手を否定しない。本人の思いも含め多職種それぞれの意見を生かしていく
- ・多職種との連携が大切
- ・あきらめてはいけない
- ・ウェルビーイングです
- ・KT バランスチャート購入します ウェルビーイングについて忘れず活用したい
- ・多職種の皆さんも連携や共有を望んでいることがわかりました。今回のテーマについては、ご本人が良い人生だったと思っただけの大きな要素と思います。叶えて行けるよう努力しようと思います。

- ・KT バランスチャートという評価ツールを知れたこと。評価することが目的にならないように、他職種に還元できるように活用していきたいです
- ・患者様の心の声、本心に気付くということ。

2 研修内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・日々ケアの中でどこまでウェルビーイングを考えて行うことが大切だと感じています
- ・日頃の業務
- ・上記 3 で学んだことを念頭に日常の歯科診療を行うようになれそうです
- ・アセスメントで本人の意向を確認する
- ・利用者様の思いをききだせるように心がけることが大切だと感じました。心からの思いがきける様に声がけをして行きたいと思います
- ・入れ歯を入院中から継続して使っていただくようにしていきます
- ・食べる事を嫌がるには理由があり、本来は食べたい欲求がある
- ・食べることは幸せだ
- ・よく聴く つなげる をしていきます
- ・実践している皆さんの考え方を学んだ
- ・他の職種の方もつながることを望んでいることがわかり CM としてうまく中継していけたらと思います
- ・摂食不良の患者様の評価
- ・食べると服薬する同一。

3 研修を受けて、実務において何を実践しますか

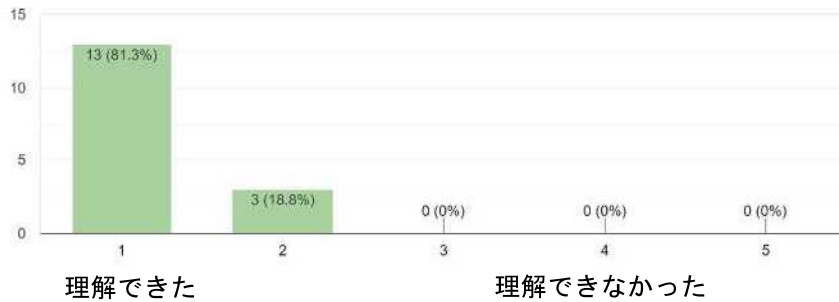
- ・本人の思いを聴き出す 日々の会話の中でその言葉を書きとめるようにしてみたいと思います
- ・栄養指導等で介護者 本人に寄り添い 多職種の意見も反映し栄養だけの観点だけで完結しないようにしていく
- ・アセスメント→多職種連携 顔の見える関係の構築
- ・あきらめず聞く
- ・あきらめないということを実践していきます
- ・きく事はくり返し、本当の気持ちを知る努力をする
- ・家族、本人の話をしっかりと聞き取る事が大切(何度も繰り返しで)
- ・食べないといけないと伝える
- ・患者さん望む生き方を聞き取る努力をする 話を聞いてくれると思ってもらえる支援者になりたい
- ・ご本人の思いをもっとしっかりと聴きとるようにして行くこと、そしてそれを関係事業所へ届けて行きたい
- ・他職種への意見提案と会話を今以上に積極的にする 患者様の本心をききだす
- ・服薬、体調変化本音に気付く。

4 学んだこと、やろうとしていることに障害はありますか、それは何ですか

- ・施設職員でありその思いをきちんと伝える事で介護職員にもつなぐことができるのか？と考えたが、伝えるではなく・一事例を一つ一つ積み上げていく わかってもらう やり方しかないかもと考えていく
- ・入院中の食事内容や栄養剤の使用種類など経費の問題
- ・多職種連携にあたり、どこの誰が何ができるかが分かるようなシステムが無いこと。自分で「顔が見える関係」は作れるが、医療・介護各々につながるシステム作りが重要と思う
- ・利用者の思いを知ってもその思いをかなえられない時、嚥下評価が悪くたべる事が危険な時など
- ・業務の多忙さ

- ・時間的に制限があり、協力が必要
- ・歯科衛生士 管理栄養士のマンパワーが足りない
- ・私自身のやる気
- ・特にありません。なんとかあります
- ・マンパワー不足
- ・まずは自分から、出来る範囲で。

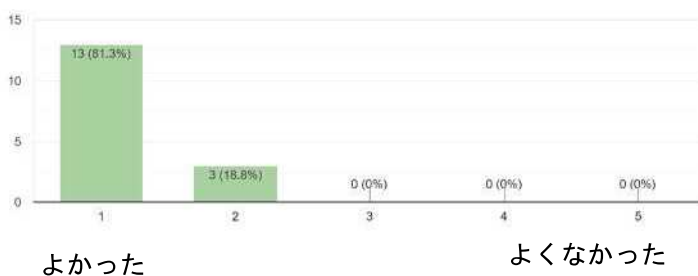
5 本日の研修内容の理解度はいかがでしたか



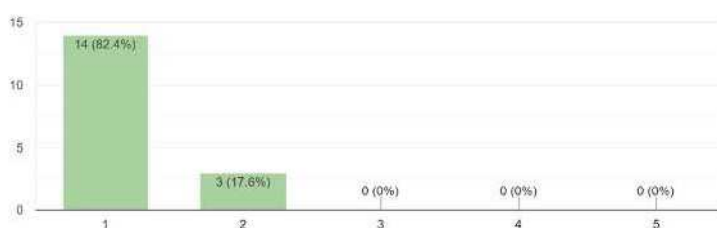
その理由

- ・わかりやすく 何をしたら良かったのか 考える場面がたくさんありました
- ・実例の話で理解が深まった
- ・分かりやすくまとまっていた
- ・歯科に関しての情報がとても参考になりました
- ・スクリーンが後ろの方だと見えにくかったので、資料があり良かった 時間があれば、もっと進むが、長すぎても脱線・するのでいい時間配分だと思った
- ・食べる事で更に
- ・わかり易く事例も発表をしていただけだったので特に困るところはなかった
- ・動画を見て感動しました
- ・食べれる、服薬できるに再度気づけたこと。

6 研修全体の進め方はいかがでしたか



7 本日の研修は業務上活かせそうな内容でしたか



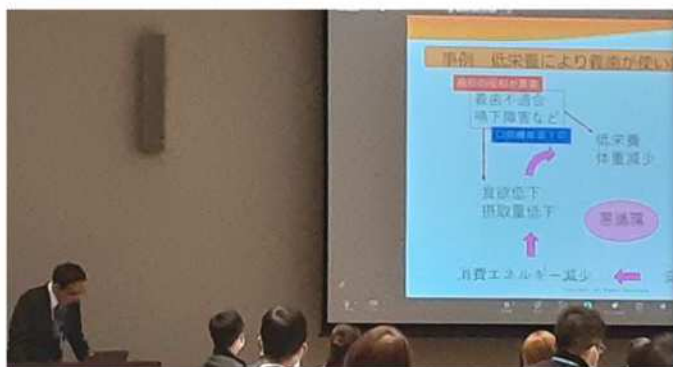
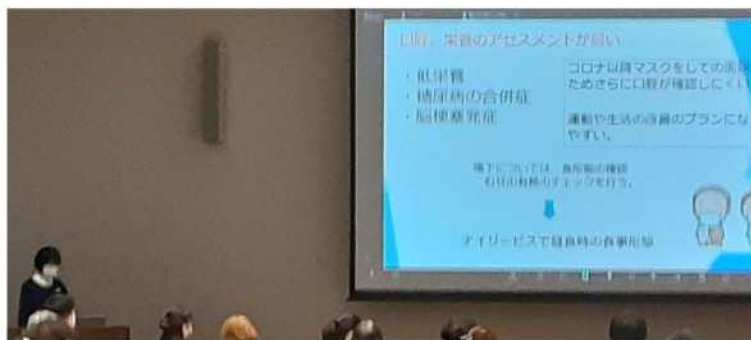
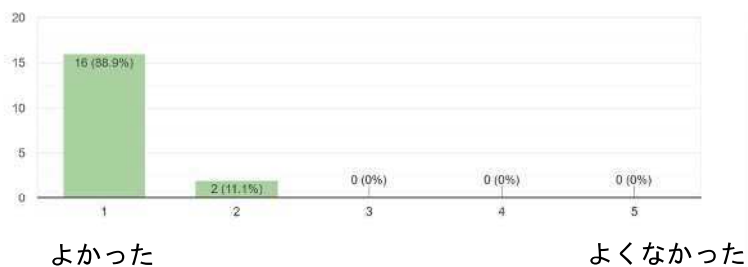
活かせる

活かせない

その理由

- ・考え方を改めて組み立てなおそうと思っています
- ・久々に嚥下の研修を受けしばらく使用していなかった KTBCも再開していきたい
- ・幸せの為に食べる その為には本人の思いを聴く つながる つなげるは自分の思い次第でできる
- ・何度も聞くという姿勢を継続していきます
- ・食べる事を積極的にした方がむしを良い
- ・食べることは生きる上でもっとも重要なことと思うため元気で利用者様に生活していただくためには不可欠です
- ・先輩方、他施設の取り組みをきけたこと
- ・寄り添い、信頼関係にあわせて、遠慮させないに気づかされた。

8 本日の研修の満足度はいかがでしたか





部会③【動く】
企画研修会

本人の想いを叶える 地域完結型リハビリテーション

豊田加茂ウェルビーイングネットワークでは、病気や障がいがあっても、誰もが「自分らしく生きる」ことを支えることができ、認知症や人生の最終段階において意思決定が困難になった状況になっても、本人が本人らしい選択ができ、幸せ・生きがいを感じ、尊厳をもって人生をまっとうすることができる地域になることを目標とする

開催日 2024年 11月 30日(土) 14:00~16:00

会場 豊田加茂医師会館 2F 講堂 (豊田市西山町3丁目30番地1)
または オンライン

参加費
無料

基調講演

現地参加とオンライン

(回復期)リハビリテーションと
生活期との架け橋

三九会 三九朗病院
リハビリテーション科
藤田医科大学医学部
名誉教授

園田 茂 先生



グループワーク

現地参加のみ(ぜひ会場へお越しください)

模擬カンファレンスを通し、
本人の想いを聴き、それを実現
できる多職種連携について学ぶ



お申し込みは、右 QR コードもしくは裏面をご覧ください。

主催 豊田加茂医師会

～豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会③部会委員～

部会長	橋本	順二	みよし市療法士会
副部会長	中垣	義治	豊田市介護サービス連絡協議会デイサービス部会
	和田	陽介	豊田市療法士会
	本名	源裕	みよし市 特別養護老人ホーム
	小島	朝子	みよし市 地域包括支援センター
	浅野	晃	豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
	清水	敦子	豊田市老人保健施設協会



アドバイザー
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
三井克哉

令和6年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
【部会③】「動く ～リハビリテーション～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和6年11月30日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（講演のみ当日と後日視聴可）
- ・司会進行 平吹広一副会長 部会③部長 橋本順二氏
- ・挨拶 加藤真二会長
- ・講師 榎本康宏理事 豊田市特別養護老人ホーム施設長 三井克哉氏
- ・閉会挨拶 平吹広一副会長
- ・テーマ 「本人の想いを叶える、地域完結型リハビリテーション」
- ・講演 テーマ「（回復期）リハビリテーションと生活期の架け橋」

講師 三九会 三九朗病院リハビリテーション科

藤田医科大学医学部 名誉教授 園田 茂 先生

- ・グループワーク「模擬退院前カンファレンス」

～模擬退院前カンファレンスを通し、本人の想いを聴き、それを実現できる多職種連携について学ぶ～

- ・参加者 会場 72名 ライブ視聴 13名 オンデマンド視聴 47名 計132名
- ・会場参加者内訳 医師17名、MSW10名、保健師・看護師13名、ケアマネジャー5名 管理栄養士1名 公認心理士1名 理学療法士・作業療法士16名 社会福祉士2名 特養施設長3名 事務1名 行政職3名
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 43名／72名（回答率：59.7%）

【アンケート結果】

1 本日の研修での最も大きい学び、気づきは何ですか

- ・対面での多職種との意見交流。面識ができて良い。
- ・受け手の欲しい情報を伝える、患者の要望の表面ではなく、核となっているものは何か、代替案はないかを探る重要性を再認識した
- ・本人の気持ちを語ってもらったこと。よく聴くことの重要性に気づいた
- ・「ウェルビーイングを尊重する」という価値観そのものの大切さ
- ・申しおくりは受け取る側の立場に立って
- ・相手が求めている情報を組みとって適切に提供できるよう意識を高めておきたいと思いました
- ・本人の思いをききましょう、と教えられ、なぜ本人の思いをきくことが大切かも学んできたが、本当に本人が思っていることをきくことは難しい
- ・カンファレンスではどうしても専門職の情報のやり取りが主になりがち
- ・病院のリハビリテーションを地域につなぐことの意義、ご本人、ご家族の幸福のために病院ができることを考え続けることの大切さを学ぶことができました。
- ・このようなカンファレンスが実際に行われていること 本人や家族の思いをしっかりと聞いていただけるという安心感は大きい
- ・多職種、患者、家族 人の話をきくことの大切さ

- ・事前の生活歴や情報収集をいかに多くもっているか、思いに添えるか
- ・カンファレンスの中に如何に本人家族を入れて話せるのか？巻き込んだ話し合いに出来るのか？を学びました。
- ・患者中心に
- ・他職種での連携やその重要性について
- ・患者の思いをちゃんと聴くこと
- ・患者家族の立場と医療職とのちがいを体感できた
- ・患者さん、家族がどのように生活していきたいか、を尊重することの重要性を再確認できた
- ・在宅の事はうたひので良かったです
- ・利用者様の病院から在宅に向けてのリハビリテーションのあり方、どの様につなげていくのかとても勉強になりました。
- ・受け取る側の立場で対応
- ・模擬カンファレンス
- ・リハビリの啓発活動の必要性
- ・思いに寄り添う際に「なぜそうありたいのか」という深掘りが大切で、そのためには一歩下がった視点で思いを受け止めることが大切。生活期へ繋げていく際に、後方支援の立場になり役立つ情報とは何かを考え提供していくこと。
- 思いをつなぐ
- ・患者さまや家族が置いてけぼりにならない会議にすること
- ・ロールプレイを通して、患者さんと家族を軸に会議を進めることで、チームとしてその方のウィルビーイングを支えることになると感じました。
- ・カンファレンスを見学をさせてもらって一番感じたことは、患者さんは患者さんでいたいことがあるが、医療のかんてんから見ると難しいということも沢山でてくると感じた
- ・ご本人の思いをきく そこからどう叶えるか考える チームで
- ・患者の立場になったときに、専門職に「これはできない」と1つ否定されてしまうと、どんどん他の想いも伝えられなくなっていってしまうと感じた。例え出来ないとしても、できないと言い切ってしまうのではなく、少しでも叶えてあげられる範囲を考え、真っ先に叶えられるポジティブな意見を伝えてもらえると、前向きに想いを伝えていけると感じた。また行政のように専門知識がない人の方が、より患者に近い立場で意見が言えるため、今回多職種連携として、模擬カンファレンスに参加できたことは、自分自身が勉強になったと共に、微力ながら専門職に還元することができたのではないかなと思う。
- ・本人・家族の想いを実現するために我々は何ができるのか リハビリを通した生活基盤づくり
- ・ウェルビーイングを意識したカンファレンスをしていなかったことに気づきました
- ・利用者、本当の思いを確認しながらのカンファレンス
- ・患者さん家族の気持ちをくむのは、医療者の思う倍くらいしんどいことだと感じました。
- ・本人がやりたいことのバックヤードを考えることが大切。なぜそれをやりたいか。それを実現するにはやはり専門職等の継続的な関わりが大切ということ。
- ・本人、家族が〇を話しにくいことがあると気づきました
- ・日常と違う立場でカンファレンスに参加したことで、相手側が欲しい情報と自分が提示していた情報にずれがあった。
- ・本人、家族の思いを中心に支援する事が大切と思いました
- ・他職種の方と模擬カンファレンスによりそれぞれの考え方が学びました
- ・患者、家族の思いをしっかりと確認していくこと
- ・地域の中での顔の見える関係づくりの大切さ

2 研修内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・考えられた症例で医療、思いを達成できる方策を出し合うことができました。
- ・日常診療に
- ・問題点中心ではなく、患者の思い・希望を中心に業務を進めていきたい
- ・日常の臨床
- ・生活におとしこめるようお伝えすることを学びました
- ・面談やカンファレンスは本人の思いを叶えることが目的であると念頭におく
- ・実際の退院前カンファ
- ・ご本人、ご家族の思いを尊重すること、そのために日々の面談を丁寧に行いたい。
- ・日々退院前カンファや担当者会議があるので、役立てる場面が多い。
- ・実際のカンファや担当者会議
- ・展開力
- ・マインドセットを変えること
- ・患者さん、家族の思いを確認していくこと
- ・常に退院時の事を〇〇することができそうです
- ・病院での急性期を引き継いで、回復期から安定した生活を維持できるリハビリテーションを提供していけるかなと感じています。
- ・臨床の患者への寄り添い方
- ・本人のウェルビーイングを考えた支援をすること
- ・できるADLをしているADLにつなげていくための取り組み。シームレスな支援に必要な項目を学んだ。
- ・医療者との情報交換の場と思っていましたが患者・Fの主体の会にしようと気持ち的にチェンジできました
- ・本人や家族と会議をしても、気がつくと専門職の情報交換の場として進んでいくことが多くなってしまっていた。
- ・在宅生活を支援する為の情報交換で、その主役の気持ちを専門職が汲み取りチームで支える視点を取り入れたいと思いました。
- ・3のことからいかに患者さん本人に難しいと感じることを、最大限まで可能にしてあげるかを考える機会になり今後に役立てそうと感じた
- ・在宅療養や人生会議について高齢者クラブ向けに出前講座を実施している。今回実際に模擬カンファレンスを体験し、専門職の方々が本人の思いを聞くように務めていること、少しでも叶えられるようチームで考えてくださっていることを、直接学ぶことが出来た。今日自分が感じた安心感、頼もしさを市民の方々へ伝え、だからこそ元気なうちから人生会議に取り組み自分の思いを専門職に伝えることが大切だということを、より多くの人達に伝えていきたい。
- ・知識よりは考え方
- ・参加者が共通意識を持ってカンファレンスにのぞめるように働きかける
- ・役立たせたいと思います。
- ・リハビリは自分でやるのが大切と伝え実行してもらおうが、継続的なサポートをしていくことの大切さを周りにも伝えていくこと。
- ・本人、家族の思いを聞くための工夫が必要であると心がける様にして行く
- ・調整面談時には患者家族の気持ちをしっかりと引き出す関わりを心がける。
- ・次回からのカンファレンスに役立ちそうです
- ・カンファレンス参加の際に思いを考えてやっていけるようにします
- ・今後在宅調整を行うため実践的で全てが役立ちそうです
- ・病院⇄在宅の連携作りを通して、その人らしい生活を考える思考

3 研修を受けて、実務において何を実践しますか

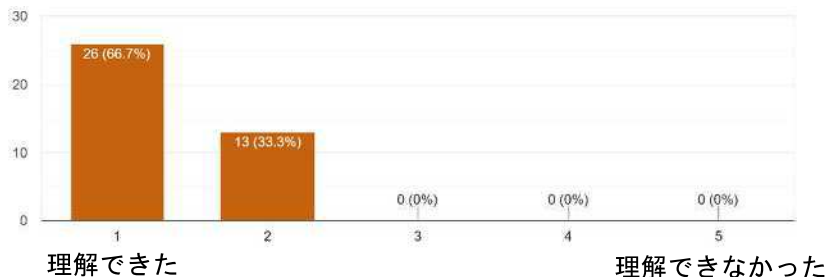
- 患者になりきって想いを感じられるようにすること。
- 面談時本人によく聴くことを行います
- 想いを聴きだす、語ってもらうことを大切にしたい
- 相手(患者・家族)は何を求めているか？
- カンファの場でも患者さん、ご家族さんを中心にして話し合うこと
- カンファレンスでは本人・家族が主役であることを常に意識する
- 本人、家族への確認、声をきく機会を増やす
- 患者様の入院前の生活についてや、ご本人、ご家族の思いを丁寧に聴き取りたい。なぜそう思うのか？背景を掘り下げられるように、またその内容を多職種と共有できるように取り組みたい。
- まずは本人、家族がどのように過ごしたいかを聴く
- カンファレンス中を本人家族に話をするなど参加型に出来るようにしていきたい。
- 他職種連携や家族様との面談での伝え方
- 意向をきちんと聴く
- 話をきくこと 話をきいたスタッフを評価すること
- どのように自宅生活を送りたいか、患者さん、家族の力をどこまで引き出せるか実践したい
- 訪看では回復期リハビリテーションがメインになってくると思うため、急性期の状態を退院前カンファレンスで把握して行きたいと思いました。
- 会議に参加した時には本人の意向を意識する
- カンファレンスの際、情報共有の場のみにならないように患者家族にも適宜意見を促せるように努力したい
- できる ADL をしている ADL につなげていくための取り組み
- カンファレンスの第一声が、変わりそう
- 患者・Fa の想いを大切にしていける会議にしたい
- 会議の前の情報収集をもう少し本人目線にしなければと感じました。今回本人役でしたが、多くの人の目の前で自分だけの生活の話を伝える恥ずかしいような申し訳ないような、普段のワーカーとしての立場と違う気持ちになりました。前もって本人に説明し理解を得ること、目的をきちんとさせること、本人の希望になるべく添える進行ができるようにしたいと思います。
- 患者さんの願いや意見をしっかり聞くことが大切だと感じた
- ご本人の思いをきく
- カンファレンスで本人の想いを聞くことに時間をとれるよう、事前にサマリ等を共有して患者の状態を把握しておくという意見が出た。そこで、豊田みよしケアネットで情報連携が出来るのではないかと考えた。実際に医師会様の御協力で、現在くらげ連携の際に活用できないかと相談をいただいて活用してもらっていたが、もっと活用範囲を広げていけるようにしていければと思う。
- 相手を想うこと
- 相手が何をききたいかを考えること 情報提供の際
- 患者さん家族の声かけ多めに、司会したいです
- 会議の時などに、自主トレメニューを渡すだけでなく、日頃から利用者様に自主トレの必要性の声かけや実践法の確認を、サービス利用時に専門職等に確認してもらうことを都度依頼する。
- 本人、家族の思いをかなえるための工夫を考えて行きたい
- 在宅側が欲しい情報が何かを考えて情報提供する。また、患者家族の思いをカンファレンス前にしっかりと聴取出来るように努める。
- 本人や家族の思いを確認して支援をすすめたい

- ウェルビーイングの視点を持って対応していく
- 意向、思いの確認したいです
- その人や家族がどんなことを望んでいるか、かなえられるか考えていきたい

4 学んだこと、やろうとしていることに障害はありますか、それは何ですか

- このような機会が少ないこと。
- 時間、コミュニケーションのスキル
- 患者さん・ご家族さんの特性に合わせること
- 業務時間内 限られた時間でカンファを行う必要がある
- 多職種でのチーム支援では、それぞれの専門職で譲れない部分も出てくるのでチーム内での調整が難しいことがあります。地域で実践されている支援を知らないと、早い段階で自宅退院は難しいと決めつけてしまう職員もいるため、伝え方が難しいと感じることが多いです。
- 園田医師からもあったように、今回はフィードバックがあった点で気付ける事があったが、実際の場合ではフィードバックは無いので、どれ程の方が問題と理解し実践していけるか？
- 時間がない
- 障害は特にありません。
- まだまだ連携が充分取れてないので頑張ります
- 自分の勉強不足、配慮不足
- 病院にいる時から、次の生活に向けての視点を持つことが大切だと思いました。 外部の機関と話さない職種はなかなか地域のネットワークの中で自分たちがどの役割にいて、次に繋がる為の視点が持ちにくくなっていると感じます。どの職場也多忙ではありますが少しでも自分の立場から働きかけて行ければと思います。
- まずは理学療法士になりキャリアをつみたい
- 現時点ではなし
- 自分自身の考え方
- 時間
- 時間的な制限、職種によっては。
- 自主トレを行う意欲を持ってもらえるように気持ちを持ってもらえるようにするにはどうしたら良いか、ということ。
- 障害はないが、業務が多忙になると自分の心掛けが不足する可能性がある。
- 本人や家族の思いの方向性の違いがある時、どのように支援するのが良いのか、、、
- 多職種が対等に話し合えるかどうか

5 本日の研修内容の理解度はいかがでしたか

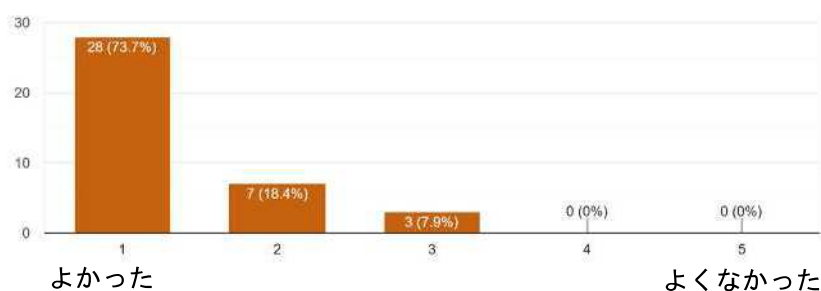


その理由

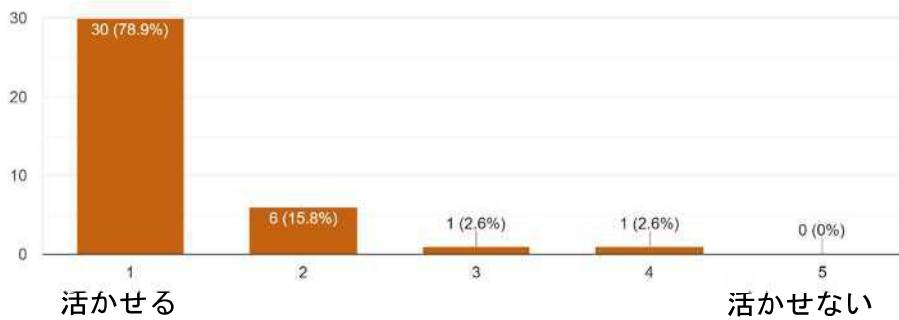
- 多職種との意見交換ができたこと。

- 普段から意識はしていることではあるので理解しやすかった
- とても分かりやすかったです
- 講演もわかりやすく、模擬カンファレンスも意図がわかりやすかった
- 実際のカンファ同様に他施設、他職の意見を聞けてよかった
- 園田先生の講演が大変勉強になったのですが、自分の知識不足もあり、十分に理解できたとは言い難いです。
- 相手の立場になって、どのような情報提供を伝えられるか
- 初めての参加でしたが、皆様優しく退院カンファを実践できたため
- カンファレンスで同じ方向を向けた。
- わかりやすい内容でした
- 看護師の立場なので、全てにおいて理学療法士と同じ様には出来ないため。
- リアルでわかりやすかった
- 参加の経験があったため
- 他職種との研修は学びが多く、視野を広げて考える機会となるから。いざ実践してみると理解が不十分だったり、まだまだスキルアップが必要だと感じる。
- リアルな会議になるよう情報など開示がわりふられていて良かった
- ワーカーの先輩の模擬会議進行で見たこと、本人の立場になったからこそ模擬会議中に各職種の方の自分への声かけや自分への視線の大切さを知ることができました。
- まだわからないことが多いが、資料を読んだり、カンファレンスの様子から見えてきたものが沢山あり、いい経験になった
- 退院前カンファレンスについて実際に参加する機会がなく初めて体験をしたため、こういった内容を伝えているのかどんな雰囲気なのか知ることが出来たと思い2を選んだ。1出ない理由としては、やはり専門職同士の話であるため医療専門用語が入ってこなかったり、なぜ自分の想いは自分の様態では叶えられないのか理解に苦しむところがあったからです。全体としては非常に勉強になりました。
- 他の人にうまく伝えられない
- とてもわかりやすかった。
- 今回は家族協力や介護意欲が高い家族のカンファレンスだったが、患者が帰りたいが家族支援が得られないケース、金銭的背景によりサービス利用に制限がある、単身独居の認知症症状が強く生活自体に課題が大きいなど一筋縄では自宅退院困難なケースの調整やカンファレンスの場合、どうすることがいいか疑問も残ったため。
- 具体的で良かった
- わかりやすく進行していただいたので
- 実際に体験していたので理解できました
- 役作りは良いが、現実的にはもっと複雑なパターンがあると思う

6 研修全体の進め方はいかがでしたか



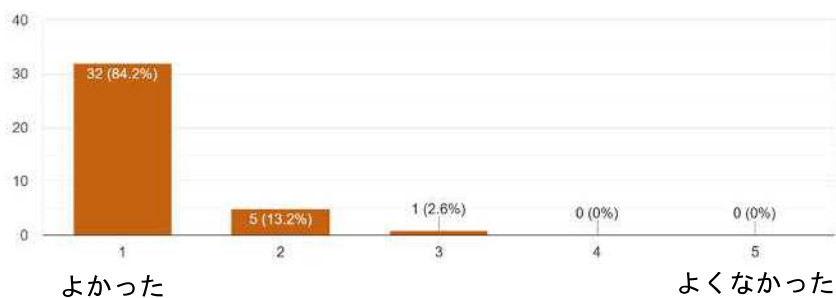
7 本日の研修は業務上活かせるような内容でしたか



その理由

- ・退院前カンファレンスを充実させること。他施設のスタッフと意見交換できる状況を作ること。
- ・カンファレンス参加者の意思・想いの共有が必要で、自分だけでは不十分と思うため
- ・退院前カンファに参加する機会は少ないですが、共有の方法において学びになりました
- ・カンファレンスの進め方が勉強になった
- ・本人、家族役の方の意見が的確で内省できた
- ・リハビリテーションの目的について、根本的な理解が変わりました。地域へつなぐ視点が今まではなかったと反省しました。
- ・カンファレンスのイメージが持てたので市民をつなげるときの参考にできる
- ・実施にカンファや ICを行う事が多いため
- ・いつもやってるつもりだから。
- ・多職種に思いをいたすことの重要性
- ・在宅支援コーディネーターとして、本人の思いや家族の思いを聞き、尊重していきたい
- ・模擬カンファレンスで、訪問看護師以外の立場を考えるきっかけが出来たから。
- ・課題として活用できる
- ・参加する場合があるため
- ・講義内容、模擬カンファレンスなどがより実践向きの内容だったから。
- ・病院の生活を聞き出すことが多かったが在宅に向けてどうなのかを焦点に合てたい
- ・会議の進行について、限られた時間の中で有意義なものにするために情報収集や本人に寄り添う進行ができるように考えていきたいです。
- ・これからのキャリアでこのことを思いだし活用していきたい
- ・カンファレンスに参加する機会は今後も想定されないため。しかし、カンファレンスで活用出来るツールがないのかであったり、市民の方へ在宅療養や人生会議を周知啓発する際に伝えられる内容があったりと、カンファレンス以外の場面で活かせることがあるかもしれないと思い 4 にした。
- ・模擬カンファレンスのようにしたら、本人のやりたいことがより明確になり、気力も高まり、他職種からも本人のこれからの可能性を見つけてもらうことができると思いました。担当者会議ではケアプランが本人のものであるということを本人が思ってもらえるような意欲的になってもらえる会議を開催したいと思います。
- ・カンファレンスや在宅との情報提供で必要な視点を学ぶことができたため。
- ・退院前カンファレンスをする為在宅退院していく中で情報共有が上手できそう
- ・カンファレンスはこれからもあることなので
- ・実際には時間がゆっくりとれない事が多いと感じます

8 本日の研修の満足度はいかがでしたか



9 その他、お気づきの点

- もう少しカンファレンス内容の発表時間があると良かった。
- すばらしい研修会でした
- 本日は、とても充実した研修をありがとうございました。大変勉強になりました。また、普段は色々な機関、サービス事業所の方や、ケアマネジャーさんと電話でしかやり取りしたことがなかったりと、本日の研修ではどなたかとお挨拶ができればと思って参加しましたので、参加者の名簿(席次表)がいただけると嬉しかったです。
- またこのような機会があれば参加したい
- もう少し話し合いの時間が多いと良かった きちんと役割分担されていて進行がスムーズで楽しかったです
- 医療という仕事は、患者さん本人の意思も反映させてあげることが大切だし、安全性や本人の状態も考えて発言・行動していかないといけないので考えさせられる仕事だと感じた
- 在宅調整時に、地域側から難色を示されるケースも散見している。実際に地域で対応難渋例や、在宅専門医とクリニックでの訪問診療の対応の違いなど知る機会がほしい。



「聴く」 「つながる」 「つなげる」 の大切さに気づく

参加費
無料

申込は
裏面

令和6年11月9日(土)
13:30～16:00
豊田加茂医師会館2階講堂
(豊田市西山町3-30-1)

講演＜地域の取組事例＞

※講演のみオンライン配信・オンデマンド配信あり

【事例1】

地域で生きる、暮らす、
働くということ
～つくラッセルというかたち～
つくラッセル 代表 戸田友介氏

【事例2】

認知症になっても
仲間と一緒にいられる
居場所づくり
チームみどりんオレンジ 代表
山田 隆夫氏

体験 ※会場のみ（定員 先着72名 定員を超えた場合は、見学していただくこととなります）

「超高齢社会体験ゲーム コミュニティコーピング」

(企画・制作 一般社団法人コレカラ・サポート)



コミュニティコーピングとは？

人と地域資源をつなげることで社会的孤立を解消する協力型ゲームです。プレイヤー同士でコミュニケーションを図りながら、楽しく遊ぶことができます。

このゲームを通して、
「聴く」

「つながる」
「つなげる」

の大切さに気づく
体験を試みませんか

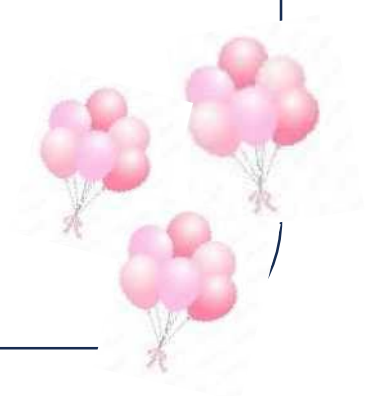
＜豊田加茂ウェルビーイングネットワークとは＞

豊田加茂ウェルビーイングネットワークの活動は、病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階において意思決定が困難になった状況においても、本人が、本人らしい選択ができ、幸せ、生きがいを感じ、尊厳をもって人生をまっとうすることができる地域となることを目標としています。

＜問い合わせ先＞ 豊田加茂医師会事務局 TEL(0565)33-7773

～豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会④部会委員～

部会長	藤江 貴紀	豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
副部会長	原田 一彦	みよし市 デイサービス
	山本 紀子	AMSW 協会 西三河北部ブロック
	福元 聡史	豊田市保健所管内栄養士連絡会
	足立 久美子	みよし市 訪問看護
	山本 綾子	みよし市 訪問介護
	天野 祐司	みよし市 特別養護老人ホーム
	深谷 好広	みよし市療法士
	金澤 考明	豊田市 地域包括支援センター
	石塚 恵美	豊田市 訪問看護部会
	国松 佐知	豊田市地域自立支援協議会
	水野 本代	みよし市 栄養士
	後藤 亮吉	豊田市療法士会
	北原 美由紀	みよし市 地域包括支援センター



アドバイザー
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
三井克哉

令和6年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
【部会④】「課題別プロジェクト ～地域づくり～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和6年11月9日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（講演のみ当日と後日視聴可）
- ・司会進行 平吹広一副会長 部会④副部長 原田一彦氏
- ・挨拶 加藤真二会長
- ・講評 平山真彦理事 豊田市特別養護老人ホーム施設長会 三井克哉氏
- ・閉会挨拶 平吹広一副会長
- ・テーマ 「聴く」「つなげる」「つながる」ことの大切さに気づく
- ・講演 「地域の取り組み事例」
 - 【事例1】地域で生きる、暮らす、働くということ～つくラッセルというかたち～
つくラッセル代表 戸田友介氏
 - 【事例2】認知症になっても仲間と一緒にいられる居場所づくり
チームみどりんオレンジ代表 山田隆夫氏
- ・体験 「超高齢社会体験ゲーム コミュニティーコーピング」認定ファシリテーター6名
- ・参加者 会場 53名 ライブ視聴 9名 オンデマンド視聴 51名 計113名
- ・会場参加者内訳 医師7名、薬剤師1名、保健師2名 社会福祉士2名、看護師8名、歯科衛生士1名、理学療法士5名、MSW2名、介護支援専門員8名、地域包括支援センター職員2名、CSW3名、相談員1名、施設長2名、行政7名、その他2名
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 20名／53名（回答率：37.7%）

【アンケート結果】

1 本日の研修での最も大きい学び、気づきは何ですか

- ・グループワーク
- ・個別ケースからチームへのつながり方
- ・地域ごとに課題が異なること、連携の必要性
- ・地域住民と、専門職の繋がり大切さや、普段の何気ないところに、繋がり種があるということ。
- ・まずは聴く事、そしてつなげる事の大切さ。自分一人では何もできないし、専門職だけが地域の問題を解決するのではないことに改めて気がついた。
- ・地域の方とのネットワーク作りや今回のテーマである「聴く」「つながる」「つなげる」の大切さに気づかされました
- ・目先の事だけでなく、長い目でみないといけない
- ・戸田さんの取り組みを聞いて、理想を語るだけでなく、雇用を生み出し持続する事業として成り立つような事業運営、同じ考えに賛同してくれる仲間を作り実行する行動力に感動しました。
- ・聴く、つながる、つなげる、の大切さを学びました。
- ・コミュニティコーピングのゲーム性の高さ
- ・社会の課題を俯瞰して捉え、聴く・つながる・つなげる

- ・「つながる」ことの大切さ
- ・一人一人の得意なことや、専門性などをよく把握して、周りと協力して問題解決することの必要性を感じた。
- ・横のつながりの大切さ。
- ・私はみどりのオレンジの山田様話を聞いて改めて地域の方の力の大切さに気づかされた。
- ・包括の活動で地域ケア会議で使用したらよいと思いました。
- ・コーピングの大切さ、変と思ったら困っている人の話を聞きたい。
- ・おせっかいおばちゃん情報を専門職がどのくらい聞けるか。地域の力を活用して専門職の力をあげましょう。”
- ・コミュニティーコーピング
- ・目的が何かあり、その為に協力していくと、はじめての人でも会話ができる。
- ・専門職も一般の方も繋がりをたくさん持たなければ問題解決が出来ない。解決の前にはまず聞くことをしなければ始まらない。

2 研修内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・役に立つ
- ・話を聴くことが大事だと感じ、実務で取り組んでいきたい
- ・地域の課題解決を俯瞰してみることができました。日頃から意識していきたいです。
- ・とても参考になりました。
- ・まずは、自分の担当地域の方の地域との関わりについて、どの程度の資源があるのかとか、誰と誰が繋がりがあるのかなど、知る必要があると感じました。”
- ・ゆっくり話を聞く
- ・自分へ組織の一員であるため、つい組織の事情を考えてしまっていることを反省し、自分と地域を住み心地よくしたい、今すぐに思いつかないが
- ・考え方を変えて業務に取り組みたいです。”
- ・利用者様の思いにきちんと耳を傾け、地域で支え合い支援していけるよう努めたいです。
- ・ゲームづくりに活かそう
- ・日頃のネットワーク構築
- ・チームで協力して行うことを意識する
- ・地域の人の声を聴いたら、1人で解決するのではなく、他の専門職などと協力して支援をしていきたい。
- ・対応すべきことは優先順位をつけ、迅速に対応していくことが大切。
- ・何を大切にするか、よく考えること。”
- ・認知症になっても住みなれた地域作り
- ・地域（区民会館）に出むいて聴く事を多くしたい。まず聴く、つなげる役割を持ちたい。
- ・山田氏の10回に分けて認知症について地域で学んだという事例とても参考になった。認知症の事を人ごとではなく自分の事として考える事ができる勉強会、体験会必要ですね。
- ・認知症対応や相談業務
- ・協力をしてもらう時の目標を明らかにする。

3 研修を受けて、実務において何を実践しますか

- ・連携に関して頑張ります
- ・BPSDで地域から相談がある、その地区から会議を進める。タイミングをはかる
- ・課題に対して自分だけではどうしようもできない時は、まずは周囲に相談して適切なところへ繋げて

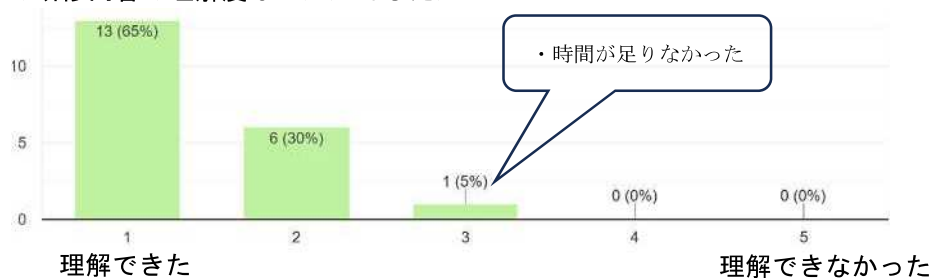
行きたい。

- ・プライベートでも自分の地域と繋がり合うこと。
- ・常日頃から繋がっておくこと
- ・各行政区の方ともっとコミュニケーションをとり、一つ一つの地域課題の確認と地域資源の開拓ができると思いしました。
- ・地域との繋がりを大事にしたい
- ・まず、研修の内容を周りと共有します。
- ・自分では解決できない事が多々あります。その時その時に報告や相談をしながらチームで解決していきたいと思います。
- ・ゲームづくり
- ・様々な専門職、市民の話を聴く
- ・普段から顔の見える関係を意識し、多方面でつながっていききたい
- ・引き続き、民生委員、老人クラブの人たちとの繋がりを大切にしたい
- ・横のつながり作りのため、いろいろに参加する。
- ・高齢者クラブ等に声かけしていく
- ・まわりの人の話をよく。 自分は何ができるかをまわりに発信していなか
- ・多職種の連携
- ・各自の役割に興味をもち、調べる。
- ・多職種で顔を合わせる場所へ積極的に顔を出す

4 学んだこと、やろうとしていることに障害はありますか、それは何ですか

- ・特にない
- ・包括のケース対応で手一杯。繋ぐ時間か無い
- ・行動あるのみ。と思いました。
- ・一つの業務のみ取り組むということができないので、どの業務を優先して取り組むかは、悩むところ
です。
- ・一つの業務に専念できると効率よくできるのではないかと思います。”
- ・障害はなし
- ・周りの人を巻き込んだり、人を動かすのは簡単ではない。
- ・日々の業務に追われて、研修等参加に二の足を踏んでしまう。
- ・コーピングのあとのつなげる つなぐ先の知識（身障、子ども、精神科、行政）

5 本日の研修内容の理解度はいかがでしたか

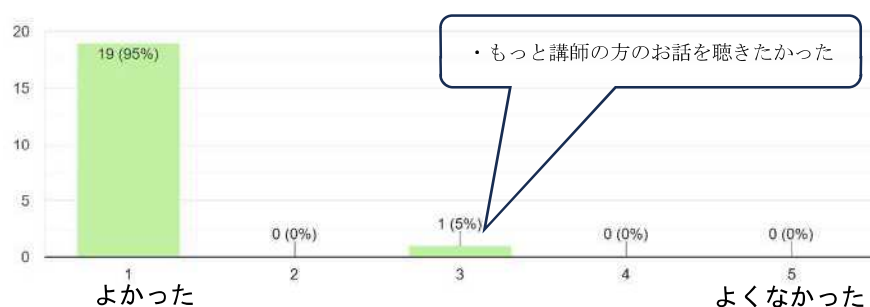


その理由

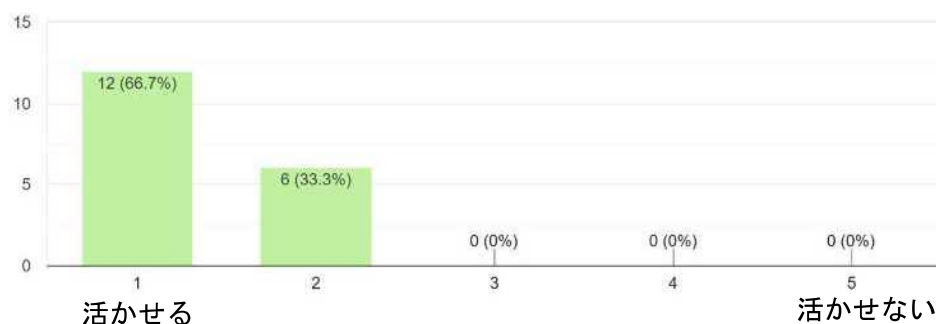
- ・時間が足りない
- ・ゲームを通してわかりやすく学べた

- ・もっと講師の方のお話を聞きたかったです！
- ・ゲームを通して感じる事ができた。
- ・講演も分かりやすく、ゲームも楽しく参加できました。
- ・よく考えられたゲームだなと感じました。”
- ・ゲームを通して分かりやすかった
- ・資料も、たくさん準備していただきわかりやすかったです。
- ・ゲーム体験をすることで多種多様な悩みがある事が分かり、それへの地域資源の活用も多種多様である事が分かりました。
- ・知っていることが多かったから
- ・テーマと研修内容がとても分かりやすく繋がっていた
- ・ゲームで楽しく、わかりやすく連携の大切さに気付けた
- ・超高齢社会体験ゲームは、わかりやすかった。ゲーム終了後の振り返りも勉強になった
- ・コミュニティコーピングをもう少しやり、日頃の業務に結びつけて考えてみたいから
- ・初めてなのでカードの使い方が判らなかった。
- ・2人1組だったので助けてもらった。”
- ・事例やゲームともにわかりやすかった。

6 研修全体の進め方はいかがでしたか



7 本日の研修は業務上活かせるような内容でしたか

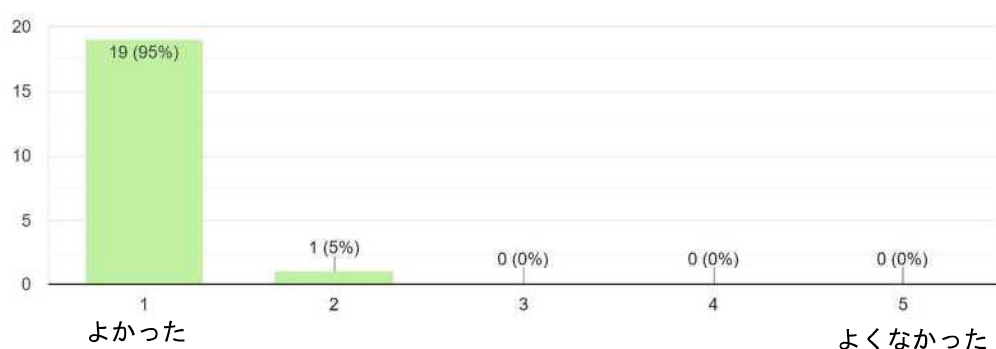


その理由

- ・抽象的なので、自分のことに落とし込むのに時間を要する。
- ・学びがたくさんありました。職場で共有します。
- ・事例2の認知症になっても仲間と一緒にいられる居場所づくりの話で、改めて、認知症だから参加できなくなるのではないことを実感したので、本人の役割や居場所を考える時に意識していきたい
- ・地域包括で仕事をしているので、地域の方と関わる機会もあるので、業務に活かせると思います。
- ・ありがとうございました。”

- ・地域の人の声を聞き、役立たせたい
- ・山田さんの取り組みを聞いて、地域の人にとって認知症の方との付き合い方、そこでの専門職の役割、自分にできることを考えて実践したいです。
- ・傾聴する事で解決できることもあると思うので、今まで以上に利用者様のお気持ちを傾聴していきたいです。
- ・ゲームづくりに活かそうだから
- ・具体的な内容であったため
- ・日頃から、地域の方の声をきくこと。必要な支援機関と繋がることを継続していきたい。
- ・魅力的な活動をしている方がいることが分かり、意欲的な方があれば紹介していきたいから。
- ・気づきがたくさんあった
- ・認知症の具体的な市民の対応やゲームの活用

8 本日の研修の満足度はいかがでしたか



9 その他、お気づきの点

- ・素敵な研修会をありがとうございました。
- ・大変面白かった。
- ・超高齢社会体験ゲームは、わかりやすく、楽しかった。再チャレンジしたい。
- ・市の多職種会議に参加していますが、今日の処方のようにメンバーで話し合うことが少なかった事に気づきました。
- ・今回もっとメンバーで協力、話し合う時間がほしかった。”
- ・充実した時間でした。
- ・ありがとうございました。”
- ・グループの人数が調度よかった。



豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

8月31日開催予定でしたが、台風の為開催を見合わせましたので、日程を改め開催いたします。

(主催) 豊田加茂医師会

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク 【特別講演】

エンドオブライフ・ケア 看取り期のコミュニケーション

受講料
無料

申込は
裏面

～本人が話すことができないとき、対話を通して本人と家族
が穏やかになるかかわり方～

2025年2月8日(土)

14:00～17:00

豊田加茂医師会館
2階 講堂

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及とともに、自宅や介護施設での看取りが増えてきました。いよいよお迎えが近くなると、本人との会話は難しくなっていくます。たとえ、本人と会話をするのが難しくても、本人も家族も穏やかになれる対話の方法があります。それは、医療を専門としない介護職や、事務職の方も、本人の尊厳を意識して関わるができる援助の一つです。救急搬送しないこと、延命治療を行わないことを決めたあと、意思疎通が難しい本人とのかかわり方にとまどう方が、どのように声をかけ、対話を進めると、本人と家族が穏やかになれるのでしょうか。実践を通じて学んでみませんか

講師：小澤 竹俊 先生

めぐみ在宅クリニック院長
エンドオブライフ・ケア協会代表理事

1963年東京生まれ。世の中で一番、苦しんでいる人のために働きたいと願い、医師を志し、1987年東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業。1991年山形大学大学院医学研究科医学専攻博士課程修了。救命救急センター、農村医療に従事した後、1994年より横浜甕生病院 内科・ホスピス勤務、1996年にはホスピス病棟長となる。2006年めぐみ在宅クリニックを開院、院長として現在に至る。2013年より、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始し、多死時代におけた人材育成として「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」の実施、「折れないところを育てるいのちの授業」を全国に展開している。また、一部の人が一部の人にしか行えない専門的なケアではなく、住んでいる場所、所得、年齢にかかわらず、誰もが、大切な人や、自分のこころのケアができるように、いのちの限られた人と向き合うなかで育まれた、たとえ死や病気という解決困難な苦しみを抱えていても、穏やかでいられるユニバーサル・ホスピスマインドを提唱し、全国各地でご講演をされています。



お問い合わせ

豊田加茂医師会 事務局

TEL: 0565-31-7711

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

令和6年度豊田加茂ウェルビーイングネットワーク【特別講演】実施報告書

- ・開催日時 令和7年2月8日（土） 14時から17時
- ・会場 豊田加茂医師会館
- ・司会 副会長 平吹 広一
- ・テーマ 「エンドオブライフ・ケア 看取り期のコミュニケーション
～本人が話すことができないとき、
対話を通して本人と家族が穏やかになるかかわり方～」
- ・講師 めぐみ在宅クリニック院長
エンドオブライフ・ケア協会代表理事 小澤 竹俊 先生
- ・総括 会長 加藤 真二
- ・参加者 106名 うち医師10名、その他参加職種：医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員、歯科衛生士、管理栄養士、介護職、特養施設長、行政職、公認心理士等
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 58名／106名（回答率：54.7%）



【アンケート結果】

1 本日の講演での最も大きい学び、気づきは何ですか

- ・5m圏内での見守り
- ・対話が進む為には過去の事実や思い、未来の思いや行動で対話する
- ・エンドオブライフ・ケアの目標は関わる人が穏やかであること。聴くの意味。
- ・本人が話せなくなっても本人の想いを汲み取る方法は沢山あるという事
- ・援助の方法を学ぶとともに、自分自身の支えを改めて確かめることができた。
- ・対話ができなくても、家族やスタッフを通してコミュニケーションをとれること。理解者になる為には聴くことが大切であること。
- ・苦しんでいる人はわかってくれる人がいると嬉しい。苦しんでいる人が心を開いてくれるよう、選ばれないといけない。小さな苦しみに気づくことが大切。そのためには練習が必要。
- ・言葉にする大切さ そのヒントをたくさんいただきました
- ・本人の一番輝いていた時のことを、家族をとして対話することで皆が穏やかになれる
- ・話を聴くこと
- ・小さな苦しみに気づけるような取り組みを普段からしていきたいと思いました。
- ・ノイズを入れない
- ・苦しんでいる人を理解すること。穏やかに過ごしてもらうためには何が出来るかを考えて関わっていききたい
- ・きちんと聴くということが大切と思いました
- ・患者家族への話し方
- ・丁度いい距離で、伴走し続ける、という言葉が身にしみました。明日からこの言葉を胸に仕事に就きたいと思います
- ・具体的なコミュニケーションの取り方。ディグニティセラピーは、以前から実際の場面で使っていたので、対話を進めるためのコツがよく理解できた。
- ・相手から見て、わかってくれる人と思ってもらえるように聴くことが大切
- ・接する姿勢
- ・対話する際、反復する事が相手にも分かりやすく、相手を分かろうとしている姿が伝えられると学んだ
- ・わかってくれる人がいるという言葉が自分に一番ひびいた 寄り添うの視点から変えていけそうです
- ・過去・未来・思い・事実の4分類で話をすすめる。反復する
- ・相手の人生に寄り添う会話
- ・分かってくれる人になるために相手の話を聴くことです。今まで、自分が理解するために聞いていたことを実感しました。「葬送のフリーレン」の生きているということは....響きました。
- ・小さな苦しみに気づく
- ・ケアの目標として Well-Being がとても大切だという事が分かりました。反復で聴く姿勢もとても必要なのだと感じました
- ・ACP: 本人・家族・関わる人が穏やかであること
- ・分かってくれる人がいることの重要性
- ・人に話をきいてもらう事で安心感を得ることが大切だと改めて感じた
- ・言葉で表現できるわかってくれる人。理解してくれる人になれるか
- ・日々の臨床で対話の大切さを改めて気づけた

- 相手を理解するという意味でのコミュニケーション方法を学び直せた。また本人が話せない時、家族の思いを引き出すことを中心に声かけし、一緒にいる本人へも声かけするという方法が ACP としてもグリーフケアとしてもとても暖かい場面になると感じた。
- 目の前にいる苦しむ人に、何をするとよいか言葉にすることができるための実践
- ノイズと反復の違いについて
- 違う言葉で返ってくるとノイズになる、ということ
- 終末期の話せない方や家族への関わり方や、その対応が職場や家庭でも活用でき大事な事である事。
- エンドオブライフ・ケアは穏やかであること
- お話をきいている際、伝え返すときにノイズを入れないことを心がけたいと思いました。
- 援助的コミュニケーションにおいて、言葉を言い換え感情を先取るとノイズになってしまうことに衝撃を覚えました。まずはノイズに気付くことがエンドオブライフ・ケアへ直結することを学びました。
- よりそいながらうけいれる
- 対話の方法でノイズを入れずに話を聞くのが難しかった。家族の役をした時、考えていた以上の事を思い出し、亡くなった人のメッセージを考えられた。心が穏やかになる経験ができた。
- 会話ができない看取り期でも、「寄り添う」ができると感じた。これなら看取り期の ACP も具体的にイメージできる
- 反復の重要性、相手に理解をしてもらうこと
- コミュニケーションで解決できる問題に目を向けすぎ、何が出来る出来ないで考えることが多いと気付かされました
- 演習をする中で故人との対話がもう一度出来た感覚になりました。心がすーっとする感覚を覚えましたよ
- 「わかってくれる人が居るとうれしい」
- エンドオブライフ・ケアは本人だけでなく周りも穏やかにできるケア
- 相手から、理解してくれる人と分かってもらえるように、ノイズを入れずに反復すること。
- きいている音楽をアセスメントしてみる
- 本当に苦しんでいる人の気持ちを理解することは出来ないかもしれない。でも、理解しようと聴くことで、自分の苦しみを分かってくれる人がいる、と思う事で穏やかになることが well-being である。
- 本人が話せない時の会話の仕方、家族に本人のこときく
- 相手のことを理解しようとするのではなく、理解されようと言葉や態度で示すこと
- 言葉にすることの重要性
- 「わかってくれる人がいるとうれしい」。人生で生き生きしていた頃のことを聴く。ノイズを入れずに聴いた言葉で返す
- ノイズを入れないこと
- 普段心掛けていた事が文章化され根拠を理解することが出来ました

2 講演内容はどのように実務に役立ちそうですか

- 傾聴すること
- 在宅看取りの利用者様が穏やか過ごせるよう支援していく
- 在宅で看取りの場面でのどのようにアセスメントを詳しく取れば良いか方法が分からなかったが、引き出し方で良い方法が出来そうだと実践出来そうだと感じた。
- 本人が話せなくても家族を交えてエピソードで引き出

- ・終末期の方への支援に役立てたい。
- ・利用者様はまずマイナス発言から始まるので、それを否定せず、その奥に潜む想いを語ってくれるような自分にならないといけない。
- ・最後の家族への声かけの仕方 実践していきます
- ・看取りきはもちろんですが、ケアプランを作る過程でも活かせると思いました
- ・聴取にならないように、相手が話をしたくなる雰囲気をつくること
- ・利用者さんの訴えの本質に気づけそうです
- ・ACP、普段のコミュニケーション
- ・生きていることを認めてあげること
- ・ターミナル期の方の言葉をしっかり受け止め、ご本人の気持ちにきづけるようになりたいです。プロとしての姿勢を持てるようにしたいと思いました。
- ・苦しみをキャッチする視点 アンテナをはっていきたい
- ・ターミナルだけでなく様々な場面で。例えば職場のスタッフに対しても、役立つと思いました。
- ・お看取り
- ・現場で対話する場面等で、反復を使って、相手を分かろうとしている。支えてる。少しでも寄りそっていると伝わるように使っていきたい
- ・利用者との接し方、日頃のコミュニケーションに活かしていく
- ・役立てたいです
- ・その方(患者さんやご家族)の思いや人生観を会話の中で引き出していくこと。
- ・歯科治療や口腔ケアにおいて、分かってくれる聴き方が出来たら、患者さまが穏やかになれると思います。
- ・反復で聴くしせいを意識して利用者の訴えをきいていきたいと思った
- ・穏やかである為に聴く
- ・相談支援や職員との面談の場面で、反復の技術を使い、相手にとって理解してくれる人だと思ってもらえるようになることを意識する。
- ・利用者、その家族との対話方法として役立ちそう
- ・家族との会話や利用者との会話で対話が進むために4分割を使ってみる
- ・仕事はもちろん、子育てなどプライベートでも役立ちそう
- ・日頃のコミュニケーション、訪問看護でのACP、看取りの場面の声かけ
- ・本人が話せない状態でも本人の思いを聴くことが出来る
- ・あらゆる場面の対話で意識していきたいと思います。
- ・傾聴、その時の対応、考え方等等
- ・これからの対応として活用したいです。
- ・訪問診療に同行する際
- ・「聴く」ことを専門としているので、わかってくれる人になれるような意識をもって取り組もうと感じました
- ・限られた訪問時間の中で、ついつい2つのNGコミュニケーションをとっていましたが、ノイズを入れない対話を意識するだけでも質が変わるかもしれないと希望を抱いています。
- ・大変役に立つと思います
- ・今特別養護老人ホームに行っています。利用者さんの元気な時の話ややりたい事を聞きたい。
- ・「寄り添う」という言葉をスタッフに伝えていたが、「寄り添う」というのは具体的にどういうことかを伝えていく
- ・現場での看取りや家族との対応。看取りに限らず役立てていきたいです。

- 看取り期だけでなく普段から認知症の家族に対してもつかえると思いました
- ケアマネとして役立てます
- 利用者やご家族に問いかけ聴くことを実践したい
- 想いを表してくれた時の合間にどう対応するか迷う事が多かったですが、間も大切にして、早速、ゆっくり反復していきたいと思います。
- 対話する時に復唱してみることで、沈黙のコミュニケーションを意識すること
- 困っている人、苦しんでいる人(相談援助の場面)に対して、言葉を言い換えず、感情を先取らず、その方の苦しみに気づくために「聴く」ということを実践したいと思います。
- 看取りだけでなく普段からの関係づくり
- ユニット型特養なので看取り以外でも家族との関わりで役に立てることができそう
- 実際の看取りだけでなく他者とのコミュニケーションに活かすことができる
- 日頃の面談の業務に活かします
- 相手がわたしを理解者と思うような関係性を築けるよう取り組んでいくこと。
- 全スタッフに共有したいです

3 講演を受けて、実務において何を実践しますか

- 反復
- 傾聴していく
- ACPを考えてもらうとき。面談時における対話方法
- 「気付く」ことを心掛けて、「聴く」とことを実践していききたい。
- 名前を呼ぶこと、適度な間をとること、否定せず反復すること
- マイナス発言を否定しない。言葉を言い換えない。相手が話せなくても、その家族から、本人が輝いていた頃の話を聞くのはむしろみんなが笑顔になれること。そんなことができるようになりたい。話が聴けるようにしたい。
- 4分割の考え 方式を使用し どのように施設内で皆に伝え実践していくか考えていきます
- 対話の内容を反復を取り入れながら考える
- 話の聞き方
- 普段の会話の中でも対話を大切にしたいです。
- 相手の話を聴くこと
- マイナスイメージの言葉を聞いたら反復を活用し、相手の想いを中断しないように心がけたい。
- 聞き方、話し方
- 家族との関わり、信頼関係が今の内からとても重要だということ
- 会話が困難なケースだけでなく、対話を進めるためのスキルを、スタッフへ周知し、広めていく。
- 本人が話せないときの、本人家族との対話
- 傾聴、対話、熱意
- わかってくれる人がいる介護士を目指す
- 反復 4分類で話をすすめる
- 死を間近にされる患者さんやご家族に向けて、それぞれの思いをキャッチし自分のできる範囲で双方の間に入り声をかけていきたい。

- 意思表示出来ない方には、介護されている方に話を聴きながらご本人に向けて言葉を反復してみようと思います。
- 小さな苦しみに気づくこと、家族との対話の仕方
- 聴くことができるよう座席やタイミングを配慮する
- 場面に合わせた語り口調。
- 看取り時期でなくても、御家族面会時にはこの技法を用いて関係を縮めていきたい
- 上記 1.2 に記載した内容
- まずは聴くこと
- 理解するためのコミュニケーション(自分の感情や自分の考えでの要約をせず、ただ繰り返したり、聴いてみる、ということ)、ACP や看取りの場面での本人と家族との対話
- 言語化が出来るようにすること
- 気持ちを改めた聴くこと。避けていた部分でもありましたが、向き合っていきたいと思います。
- 傾聴する時の対応
- 職場や家庭で実践します。
- デイグニティセラピー
- 反復の際、相手の名前を入れながら伝えること
- ノイズを入れない援助的コミュニケーションと、苦しんでおられる方の頑張れる理由の支えを対話の中から一緒にみつめ、わかってくれる人になれるよう「聴くところ」を実践します。
- 話をする時の対応方法
- 家族やご本人の思いに気づきたい。
- お客様との接し方、スタッフとの接し方について支援的コミュニケーションを実践していく
- 入居者、家族との会話に反復を用いて会話をし信頼関係の構築を実践していきたいです。
- コミュニケーション
- デイグニティセラピーを実践してみたい
- 話を聴く！！
- 利用者さんに忙しさをみせない
- 相手の話を反復する。自分の気持ちはノイズを入れないように、間を大切にします。
- いきいきしていたころの話を家族とともに話すること
- 面談の中で、ゴールは、「相手から観て分かってくれる人になること」を目標に傾聴に努め、頑張れる理由(支え)をさぐっていききたい。
- こちらの理解したい気持ちを押し付けず寄り添うこと
- 苦しみに気づける訓練を実施していく
- もっと先生のお話を聴きたいと思いました。支える人、支える仲間を増やしたい
- 援助的コミュニケーションを実践したい。
- まずは近くにいる入居者に実践いたします

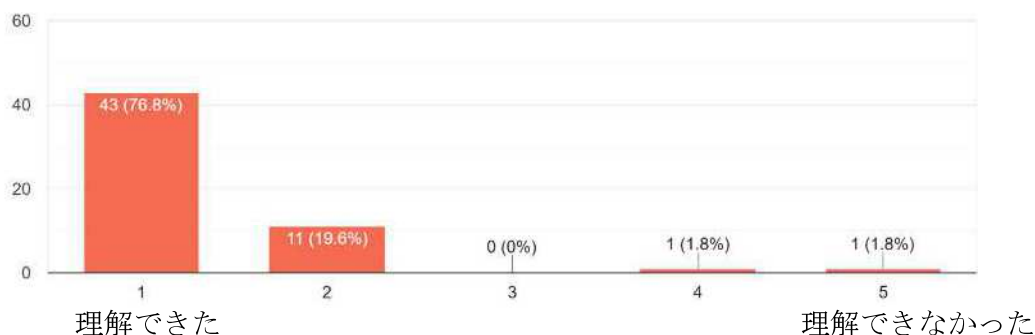
4 学んだこと、やろうとしていることに障がいがありますか、それは何ですか

- 本人の体力がゆっくり話しているとたない、しんどそうだと感じるとすぐ引いてしまう
- 勇気と学びと訓練不足。
- 私がやる気になり信念を持ってつき進む(看取り委員長なので・・・)

- 自分次第 時間がないことを理由にしない
- 看取り期に実施できるか心配です。
- 自分自身の気づく感性が弱いので、意識して話を聴きたい
- 個人差。苦手なスタッフのスキルアップ。ロールプレイングを取り入れようと思いました。
- 家族、本人と自分との関係性で、言葉のかけ方かわってくると思うので、そこが難しい
- 一人では限界がある。経験値が少ない
- 業務の工数、職員の質
- 対象者と関わりが短かく、関係構築ができていない時
- 訪問看護には時間制限があるので、信頼関係の構築には時間が要すること。
- 仕事ではできるが、家庭ではなかなかできない。自分の意見を入れてしまう(反省)。
- 対話にてお話を反復する時に、暗記してアウトプットが正確にできるか
- まずは、今回の学びを実践してみる
- 仲間を増やすこと(人材育成)
- 実践できる環境にあります
- 包括には事後に報告が来ることがほとんどである。
- 傾聴及び反復のスキル、患者さまとの時間
- 訪問時間内で対話を完了させること
- 他のスタッフに理解していただいてから行います
- 相互演習で相手の言葉を返す時、ノイズを入れずに返すことが難しかった。これからは意識してコミュニケーションを取りたい。
- スタッフにも共有したいなと思います。
- 流れを頭に入れきれてない
- 障害はないが伝えることが難しい
- 自分の中の焦り、限られた訪問時間
- 限りある時間の中で関係作りができるかどうか。
- 自分の語い力
- 家族によっては話をしたくない場合もあること
- 業務の中で時間のとり方を考えないといけないと思います。人の話を聴くことは心が落ちつかないといけないので

5 本日の研修の内容の理解度はいかがでしたか

56 件の回答



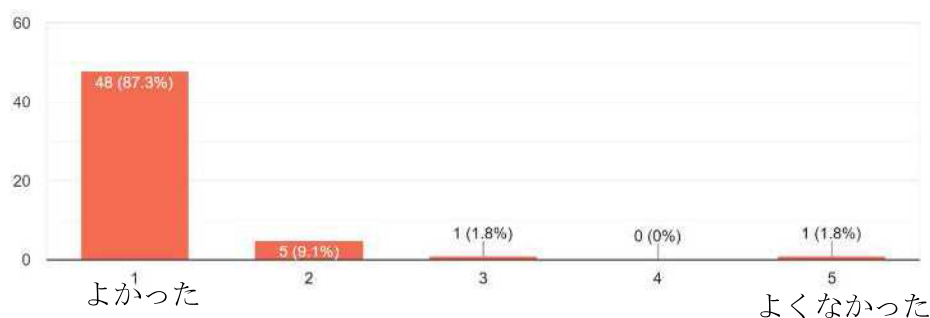
6 5 の理由について

- わかりやすくとても参考になりました
- 実践出来る内容であったから
- とてもわかりやすくすぐに実践できそうでとても為になった
- わかりやすかったです。例えば話やユーモアも交えてお話してくださり、重たくなりがちなテーマを楽しく聴くことができました。
- スライドで説明を踏まえた上でロールプレイとして即実践できたので理解が深まった。
- 一度聞くだけでなく、何度か聞いて自分に落とし込みたいと思ったから。一度では理解と記憶が難しいから。
- 話もわかりやすく楽しくあつという間に時間が過ぎました
- 先生の内容に引き込まれながら学習できた
- 話のテンポが良い。固い話ばかりだと3時間は疲れる。ロールプレイもよかった
- 実際に行って見たため分かりやすかったです
- 楽しく聞くことができた
- 説明が分かりやすかった
- ワークを通して感じることができた。
- ロールプレイ
- すごく為になる講演でした
- 聴きやすくわかりやすかった。ロールプレイングは、思いを実感しながら対決できた。
- 昨年も参加した。説明がとても分かりやすかった
- 講演だけでなく、間々に実践、実議を入れてくれるので、より分かりやすかった
- 自分の性格もあるかもしれません
- 内容わかりやすかったです。もう少し時間に余裕があったらと..早口の部分は聞き取れない事がありました。
- とても分かりやすく3時間もあつという間の楽しい講演会でした。3年前に父が亡くなりました。認知症を患っていたので、あのような対話が出来れば良かったなと切実に思いました。
- 歌や動画、例えば話等わかりやすく教えていただきました
- とても分かりやすく出来たのでよかった
- 講義の途中で振り返りがあり、確認をしながら講義が進んだ
- 講演の途中途中で「ふりかえり」があり、再確認をしながら進んでいくことができた。
- 資料の見やすさ、分かりやすい事例
- とても大事なことだと思い、実践する見本やイメージができた
- 楽しかったです。
- モヤモヤすることなく実践意欲に繋がっているため
- 歌詞も含めて大変伝わりやすい内容だった。
- とても分かりやすくひきこまれる時間でした
- 目から鱗的な素晴らしい内容を、楽しくわかりやすく、ロールプレイも取り入れてお話いただきありがとうございました。自分なりにわかった事を人に話したら、実践する事で理解できたと思いました。
- 説明がわかりやすかった
- 先生のお話はわかりやすかったです。自分自身の力量が足りないことが分かりました。
- 理解しやすいわかりやすい話であった。ロープレを行い実体験ができたのは参考になった。

- とてもわかりやすく例題をあげて説明してくれました。
- 演習をした事で理解しやすかった。
- まだペーパーを見ないと実践できない状態
- 歌謡曲が出てきたり、途中に笑いがたくさんあり、リラックスしながら勉強できたので、内容が頭に残りました
- 分かりやすい資料や知っている歌謡曲などを織り交ぜての説明で理解しやすかったです。時間も先生の楽しい講演であつという間に終了時間でした。
- 明日から実践してくださいと言われて出来るであろうレベル
- ゴールは相手に理解してもらうこと、ということは理解できた
- 今週別の場で小澤先生の研修を受けており重ねて講義を聞くことができたことが大きいと思う。
- とてもわかりやすい内容でありがたかったです。資料がやや小さく老眼もあり読めませんでした
- 終末期に限らず、「相手が私を理解者と思う」という関わり方に問題はないと思う。

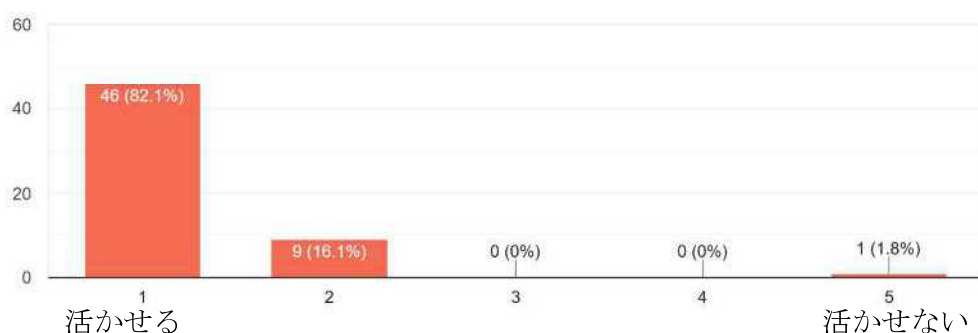
7 講義全体の進め方はいかがでしたか

55 件の回答



8 本日の講演は業務上活かせるような内容でしたか

56 件の回答



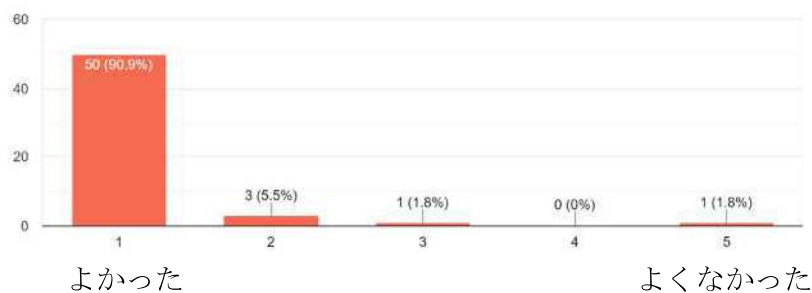
9 8の具体的な理由

- 傾聴と対話の大切さ
- 家族からの相談時に対象者に対する思いを聴く時の方法がわかりやすく、自分がやってきた事で良かったと・振り返りができた。
- 最近是在宅看取りを希望される方が増えているため
- 実践で上手く患者さまの役に立てるよう上達したい。
- 話を聴ける人になることが大切なのは、まさに自分の仕事そのものだから。
- 特養で看取りを行っています。入居者のために何ができるか考える機会となりました
- 職員全体に広めて活かしていきたいと思いました

- 対話のロールプレイを職場でも行いたいと思います
- ケアマネへの指導時や、困難を抱えた利用者、家族への対応に生かせると思った。
- 具体的な内容で良かった
- 活かします
- 私のまさに、やりたいこと、支えたい思いがあるから。
- 家族、本人と自分との関係性で、言葉のかけ方かわってくると思うので、そこが難しいと感じるため
- 仲間(スタッフ)がいるので、お互いに認めあい支えとなれる様になりたい。本人と家族とのつながりを大切にしていきたい
- ぜひ施設でもやってほしい
- 過去の事実や思い、未来への想いや行動を意識する事で、その方の人生観を知る事が出来て会話がしやすくなった。
- 業務としては最終場面に立ち会うことはあまりないので。分かってくれる歯科衛生士を目指して頑張ります。
- 家族との関わり方について学べた
- 反復してきく姿勢をもつ事が大切だと思った
- いろいろな視点でみる
- 意識をすれば行動は変えられる。
- 聴くという部分で対話 1.2.3.4 がすぐに実践できそう
- 対話のロールプレイでヒントをいただいた
- 対話の技術について
- 活かさなければならぬと思います
- 本人家族が穏やかに時間を過ごすのに必要なことだと思う。
- 学んだことをロールプレイできたのでより実感しやすかったです。事実と解釈を分けた聴き方を学びました
- 実務や家庭でのコミュニケーションに活かして、より幸せ感を共有していきたいと考えています。
- 看取りの現場にはいませんが、利用様の思いを聞く時に活かしたい。
- 他のスタッフにも伝達していきたい
- 認知症の入居者には少し難しいのかな？と思います。でも実践してみたいと思います。
- 看取りを積極的に行っています。ケアマネチームでもっと知識を深めていきたい
- 看取り期の利用者さんに接することが多いので
- ペアで実際にロールプレイできて、少しですがイメージがつかめました。悲しみ探しも日々楽しみながら取り入れて、相手の気持ちを受け止める訓練もやろうと思います。
- 包括支援センターで相談支援など、利用者や家族と対話、コミュニケーションをとる場面が多いので、今日学んだ well being について、活かしていきたい。
- 内容としてはとても良い
- 特養なので家族等人によって対応が変わるが活かしていきたい
- コミュニケーション技法として実践できると思う。

10 本日の講演の満足度はいかがでしたか

55 件の回答



1.1 その他お気づきの点

- ・大変心に響きました、ありがとうございました。
- ・唄うことで気分転換が出来て楽しく講演に参加出来た
- ・講演前に小澤先生より直接、施設の看取りのカンファレンスに対してのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。
- ・EJCの活動について詳しく聞きたかった、楽しい研修をありがとうございました。
- ・多職種が関われる機会がふえていい
- ・また参加したいです。ありがとうございました。
- ・楽しく、学びが多かった。ただ、看取りの場面だけでなく普段の業務でも実践出来る事が多くあると感じた。
- ・常に穏やかでいられるようにしたいと強く思った
- ・歌詞への解釈が変わりました。好きな歌をアセスメントしてみます。エンドオブライフ・ケア協会 10 周年おめでとうございます。全国に活動が広がっているのに感動しています。
- ・小澤先生のご講演また是非拝聴させていただきたいです。「まっています」ありがとうございました。
- ・とても理解しやすい内容でした。明日からの業務ですぐに実践してみます。今日参加させて頂けたことを感謝致します
- ・歌詞を使ってコミュニケーションの学びを深めたことが新鮮で面白かったです ACPの本人とのコミュニケーションが困難な場合、家族への問いかけ方・関わり方がしっかりイメージできたことが良かったです。実践します。
- ・昨年も拝聴させて頂きましたが、今回もとても勉強になりました。ありがとうございました
- ・ふりかえりのカッコ書きの所が早口で聞き取れなかった部分がありました。
- ・今回、知人に声をかけて貰い参加する事ができ、ご縁に心から感謝しています。「豊田加茂ウェルビーイングネットワーク」「エンドオブライフ・ケア協会員」存在を初めて知り得ました。穏やかで温かなまちづくりの展望を感じられる特別講演会でした。折角のご縁なのでネットワークに入るといシステム作りもあるといいなと思いました。その時がきたら是非、参加してまちづくりの一助になりたいです。ありがとうございました。
- ・資料の文字が小さ過ぎて見返す時に見にくい。
- ・いつも大変勉強になる研修を企画していただきありがとうございました。次回も参加したいと思います。よろしく願いいたします。
- ・自死した人の家族への言葉掛けが出来ないので知りたかった。しかし、先生に直接聞けてすこしは、理解出来ました。
- ・人各々の命の輝きがきつとあるいつも想っています。それがいつなのかを聴いていければいいとわかりました
- ・子どもが居るのでいのちの授業の詳細がきになりました

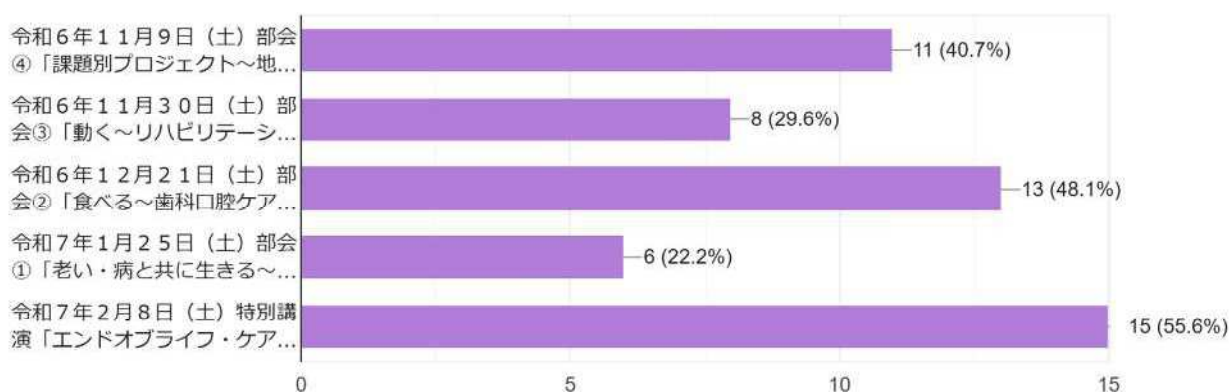
豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

令和6年度
豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会企画研修会・特別講演
事後意識アンケート

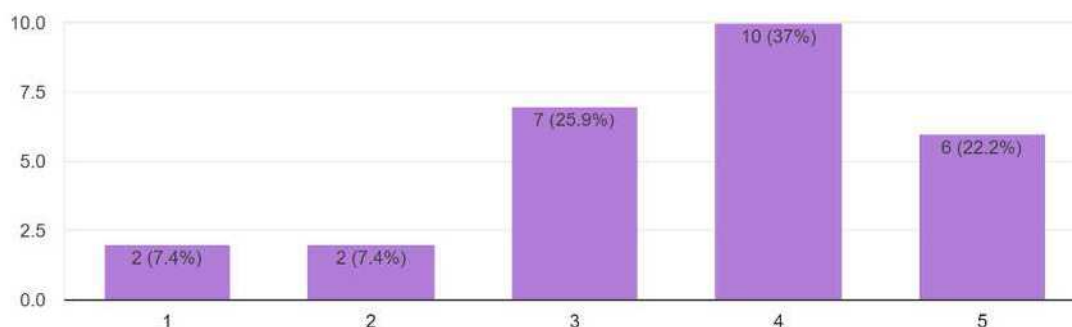
- ・アンケート実施方法：部会企画研修会 計4回と、特別講演の 全5回の研修会の受講
後アンケートにて、1～3か月後のお気持ちの変化についてのア
ンケート調査にご了承をいただいた、のべ49名（実43名）の方にオンライ
ン（Google フォーム）にて実施
- ・回答者数：27名／43名（回答率 62.8%）

【アンケート結果】

1 受講された研修会を全てお答えください



2 研修後、ご自身の行動が変化したと感じますか（1変化していない～5変化した）



3 どのように変化しましたか。具体的にご記入ください。

- ・聴くコミュニケーションを意識するようになった

- ・チームオレンジへの関心が深まり、互助について興味を持って情報収集しました。
- ・本人の意向確認を以前よりも重視するようになった
- ・開業医の先生方と話しやすくなり情報共有しやすくなった
- ・それぞれの研修の内容に感化されたところもあるが、大切にしていきたいことを痛感した。
- ・ST との相談が増えた
- ・情報をできる限り集めて、共有していく努力をする様心がけている。
- ・研修のテーマである「聴く」「つながる」「つなげる」を意識して支援するようにしています。
- ・施策検討の際に、市民の声を聴き、専門職・関係機関と「つなぐ」意識をすることができました。
- ・ケースを考える時に多職種の視点をとりいれている。
- ・小澤先生のセミナーを聞き「寄り添う」を具体的にすることができた
- ・小澤先生の本を元に研修を計画したいと考えています
- ・時と場合によりますが、傾聴を心掛けるようになりました。周囲の方々に学び得たことを話すようになりました。
- ・これまで看取り期にご本人やご家族様のご意向確認やお話など、「これからの事として」の問いかけになっていましたが、講師の先生の問いかけから「これまでで輝いていたときは、どのようなときでしたか？」のように、これまでの人生からその人を理解できると感じ、問いかけてみました。お互い温かい気持ちになり、お話を聴くことができています。看取りに限らず話しやすくなると感じます。
- ・相手の立場やこれまでの人生を思いやる機会が増えた気がする
- ・患者様に寄り添った医療提供に
- ・他職種と積極的に連携を取るよう意識が高まりました。
- ・会話の際「反復の法則」を意識するようになりました。
- ・あまり変わりありません。
- ・本人の気持ちになるべく沿うことをまず行うということが大事である。
- ・研修前と比べて、アセスメントを丁寧に行うよう心がけています
- ・反復を意識するようになった

4 研修でのどんな学びを実践されていますか。

- ・相手の本音をしっかり噛み砕いて考えること
- ・取り組みについての情報提供や、コミュニティコーピングがとても印象的で、日々意識して過ごしている。
- ・学んだことをスタッフへも声かけし共有している
- ・実際に結び付けるのは、少し迷いがあります。これでいいのかとか考えてしまうこともあります。
- ・経管栄養から経口摂取へ移行するため ST と医師と看護師の連携
- ・相手の話を聞くとこからはじまる。
- ・本人や家族の「おおい」に耳を傾け、どんな支援ができるかを一緒に考えるようにしています。前向きな目標が持てるよう提案しています。

- ・会議やケース検討などの際のファシリテーターや助言に役立てている。
- ・看取り期にケアマネだからこそ出来る事。ご本人、ご家族、そして同僚との連携について、より考える事が出来ました。そして、今後、ケアマネの研修にうまく取り入れられないか考えさせてもらえる機会となりました。社内、社外で検討したいと思います。

お話し伺わせていただいた言葉を自分風にアレンジするのをやめました

- ・看取りケアの機会はないが家族と患者さまについて、生活や自宅環境のことだけでなく想いや大切にしていた時間のことをできるだけ聴こうとしている

- ・聴くこと

- ・実践に向けて努力していますが難しいです

- ・反復の法則で会話をするようにしています。

- ・「聴く」ということ、自分の立場、相手との関係性、言葉の根拠、ひとつひとつを意識して、そして俯瞰して相手との会話を考えるようにしている。それでも、自分の土俵に相手を引きずり込んで、こちらの都合で話を進めてしまうことがある。分ったつもりにならないこと、意識しても難しい。自分の価値観を自覚して、勝手に審判していないだろうか。終末期に限らず（どこからが終末期なのか、今の医療では明確にしない、できないのだろうが）、相手の人生のほんの一ページに関わらせていただく意味を真剣に考えて取り組んでいるつもりだが、、自分自身の安定がないと難しい。支援者のウェルビーイングの実現を！

- ・アセスメントやモニタリングのときに気持ちの確認をしていく。

- ・本人様の食べたい気持ちや食べる能力について考えるようになりました

- ・いきいきとしていた頃について、聞くようになりました

5 その他お気づきの点がありましたらご記入ください

- ・いつも学びの多い研修をありがとうございます。

- ・グループワークを頻繁に行うことで、正直ストレスを感じています。そのため、オンライン受講をすすんで参加するようにしています。

- ・医師との連携をもっと密にしていきたい

- ・研修の時に、ファシリテーターがうまく進めてくれると、学びの多い研修になる。

- ・色々と勉強になりました。ありがとうございました。

- ・地域医療はとても難しい課題も多い中、各回のテーマとしてトッランナーとして尽力している方からの講演、そこから他職種での意見を交換、研修会はとてもバランスの良い進行だと思います。次年度も親しみやすく、かつ気づきの多い研修会になるかと思しますので、ぜひ参加させてください。

いつもありがとうございます。

- ・全て土曜日開催であるため、1回だけでも平日にしていただけると嬉しいです。

- ・大変有意義な研修を企画いただきありがとうございます。

- ・小澤先生の研修は、3時間経過したとは思えないほど、短く感じました。私も未熟ながら研修を開かせてもらう立場ですが、先生の取り組みの工夫や発展的なお考えも聞く事が出来ましたことは、大変有意義で刺激ある経験となりました。少しでも見習いたいと思いました。ありがとうございました。

・小澤先生の書籍を購入させていただいたり、SNS で繋がり、毎日学ばせていただいています。微力は無力ではないことを信じて、穏やかで温かい優しい関係性が町の中にどんどん広がることを希望します。

・医療介護福祉と、多職種の力が大事だと

・管理栄養士でも療養者さまが最期までご自分らしく幸せを感じられるよう多職種の方々と支援ができること、またその務めを果たす役目があることです。

令和6年度
豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会委員・アドバイザーアンケート

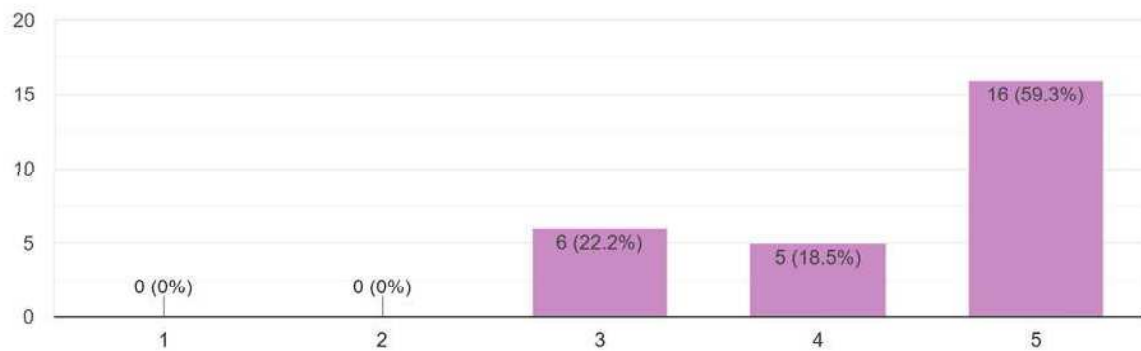
・アンケート実施方法：部会委員とアドバイザーの皆様にもオンライン（Google フォーム）にて実施

・回答者数：27名／42名（回答率 64.3%）

【アンケート結果】

1 ウェルビーイングネットワークに参加された満足度を教えてください

（1：不満～5：満足）



2 参加してよかったと思う点をおしえてください。

- ・多職種連携について学ぶことができた。
- ・業務都合で事前打ち合わせに参加できませんでしたので申し訳なく思っています
- ・まだ経験の浅い私にとって、勉強になることばかりでした。新たな発見や気づきもありました。また、多職種の皆様との繋がりができました。
- ・他機関の方と関わったこと。ウェルビーイングが理解できたことで、自分の業務にも行かせている。
- ・いろいろな分野の方と話ができて視野が広がりました。課題を抽出し、様々な取り組みをしている方々を知ることができました。
- ・多職種の方と顔見知りになり、他の多職種連携の会議などでお会いするケースが多くなった。自分の活動を知ってもらえて良かった。
- ・ウェルビーイングについて、学び考える機会となりました。今後の業務にも活かしたいと思います。また、多職種の方々と繋がる事ができた事も有難いと思います。
- ・多職種の方の話が聞けさらに同じ目標で活動ができる
- ・いろいろな職種の方と話ができ自分では気づかなかった考え方を学ぶことができた
- ・医師や他職種の方と連携ができたこと。それぞれの職種での考え方が理解でき、繋がることのできたこと。自分の関わりが伝えられた事。想いについて学べた事。
- ・様々な職種の方と知り合うことができました

- ・他の職種と議論を深めた事で違う立場からのご意見を頂き気づきが多かった
- ・この部会が無ければ知り合えなかったであろう方々、地域や職種の垣根を越えて協力し合いひとつの物を作り上げたこと。
- ・地域課題を多職種で真剣に話し合えたこと
- ・他職種や、同職種の、顔が見える関係作りのきっかけになった。
- ・WellBeingという理念の理解が深まった。また他職種の方の視点がいかに歯科と違うかを実感できた。
- ・知らない知識を得られた事。
- ・介護、福祉など医療とは異なる場所で働く方々と知り合えたことが一番良かったことです。
- ・様々な職種の方の意見を聞くことが出来て良かったです
- ・リハ職の方たちと出会えた。Drとともに研修することで視野が広がった。
- ・他職種の考え方や思い、施設ならではの生活や状況など様々な内容に触れ、一人の利用者を取り巻く環境について沢山の学びがありました。また、何か困った時は相談できる窓口も増えたので、活用させていただきたいと思っています。
- ・新たな出会いで知り合いが増えたこと
- ・ウェルビーイングについて考える機会が出来たこと。他の施設・職種の方と繋がる場となったこと。
- ・看取りというテーマでありながら、本人がどうありたいかを支え、本人のみならず、家族や地域、支援者すべてがウェルビーイングの状態にあることの大切さの学びと、それを実践する方たちとつながれたこと。
- ・他職種、他分野、他職場の方達と意見交換が出来たり、交流出来た事。
- ・在宅関係のことが少しだけですが、理解できた点
- ・様々な方と知り合いになれ、協働できたこと。

3 どのような実務に役立ちそうですか

- ・在宅での食事のアセスメント力の向上につなげたい
- ・生活期、在宅に繋げる回復期リハビリの重要性を改めて感じました。得た知識を当院のスタッフにも伝達し、私自身も実践していくことで、地域一体型のリハビリを構築していくことができると思います。
- ・自分の仕事の中ですべて生かします。職種ではなく、大切な基礎を学べたと思います。
- ・ご本人の希望を叶えるためにできることを障害福祉のみではなく、医療・高齢・地域を含めて検討することができるようになれるといいと思いました。
- ・多職種連携について、職場だけでなく地域で繋がりを持てそう。
- ・その人にとって真のウェルビーイングとは、何かをしっかりと考えながら関わらなければならないと思うようになった。

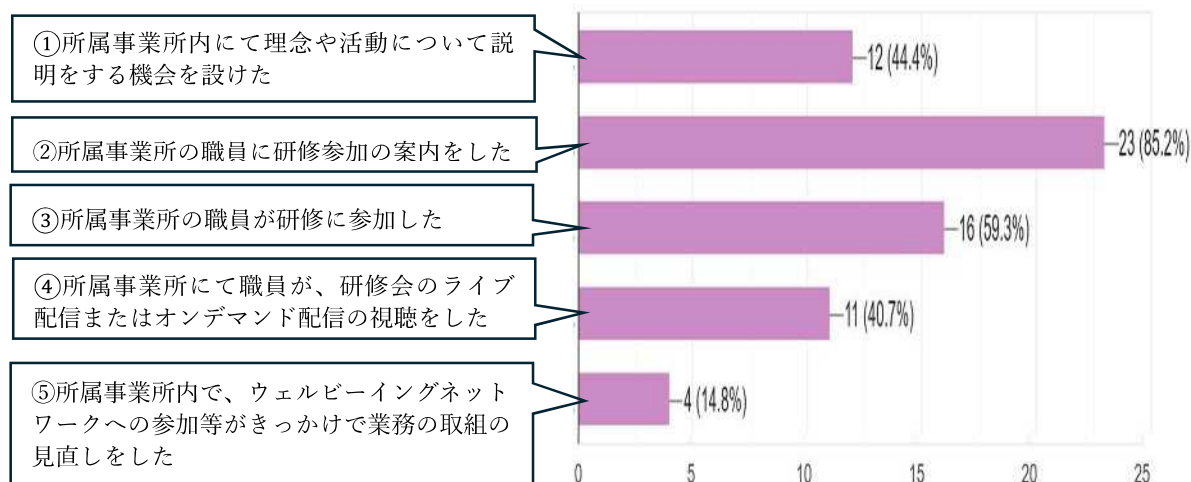
- ・誰もを排除することなく暮らしたいところで暮らすにはどうしたらいいかと以前にも増して考えるようになりました
- ・ネットワークが広がったことにより、いろいろな相談をすることができるようになった。
- ・自事業所のスタッフだけでなく、連携している他事業所のスタッフの方に関わり方について伝えていきたい。
- ・管理栄養士さんと話ができて栄養指導において連携が取れるようになりました
- ・自分の業種に向けて他の職種と繋がる楽しさ、臨床で役立つということを伝えられそう
- ・参加するまで考えたことも無かったですが、地域づくりというものに興味が芽生え、他職員にも啓発しています。
- ・ウェルビーイングの視点で地域リハのあり方を考えるようになった。
- ・連携のスムーズさ。
- ・歯科医療は WellBeing の理念と親和性が高いと思います。自院の診療形態を見直したい。
- ・地域に発信してゆく方法を検討して、地域の方の知識を深める事が出来る。
- ・地域の課題が明確にわかりました。
- ・自分の所属している職員へ情報提供していきたいと思います
- ・ネットワークを広げていきたい。
- ・実際利用者宅に訪問し、利用者さんが不安に思っている事が少しでも解消できるようになったのではないかと感じています。例えば、施設入所についてどういう所なのか聞かれ、説明に具体例をお伝え出来た、終活について聞かれ説明することが出来た等。
- ・口腔系加算の取得に前向きになった
- ・退院支援の際、外来で患者の生活指導をする際などに、地域資源について考えた話もできそう。
- ・本人主体であることを意識しながら意思決定支援として移ろいゆく思いに寄り添うことを基本に向き合う事に自信をもって取り組める。
- ・臨床場面や職場教育場面
- ・模索中です
- ・普段の業務でも、ウェルビーイングについて考えるようになりました。

4 実務において何を実践しますか

- ・今まで以上に患者さまに寄り添った対応をしていきます。また、知識を深めるために自己研鑽を行います。
- ・地域課題を包括や訪問看護と共有する機会を作ろうと思います。
- ・まず、本人の思いを聞くこと。可能であれば。
- ・その方の価値観をより意識する。多職種連携。
- ・声を出せない人を探したりつなげたりする活動ができるといいと思っています

- ・自分の担当だったテーマ「つながる」で学んだこと、感じたことをいろいろなところとつながる大切さを実践に活かしていきたい
- ・利用者様や家族様の想いを今まで以上に聴き、他職種に伝えている。自事業所のスタッフに関わりのアドバイスをしている。同部員からの相談に対応している。
- ・まずは管理栄養士さんと連携を取りたいです。いろいろなやり方はあると思いますが医師会の先生方の協力も必要となると思います よろしくをお願いします
- ・多職種連携の大切さ、自己の職種の特徴の発信を行う
- ・地域の小学校のサポート活動や第二層の協議体に参加をし、地域作りに協力しています。
- ・職場の部署内で伝達講習
- ・ネットワークの、さらなる構築。
- ・自院の医療理念を Preventive Dentistry から WellBeing Dentistry に変えました。管理栄養士による栄養指導・支援を診療に加え、患者様へ食べる喜びを伝えられる歯科医院になることを目指します。
- ・みよし市のケアマネの集まりの中での情報発信。
- ・現場に実際従事している職員へも情報提供した内容を意識しながら、支援してもらえるように出来ればと思います
- ・認知症の人たちが、普通に暮らし続けることができるように実践していく。
- ・利用者様の状態を把握し、今後考えられる状態を説明しその時にどうしたら良いのか選択肢を提示すること。
- ・口腔ケアの重要性の伝達
- ・医療・介護について聞かれた際、窓口になって簡単な案内ができると良いなと思います。
- ・相談支援専門員のスキルアップにつながるよう、研修や OJT の際の基本的な姿勢を伝える。
- ・ウェルビーイング理念の伝達を行っていきたいです。
- ・実践というよりまずは聴くことを大切にしています
- ・ウェルビーイングを含めたケアの充実、多職種連携、後輩の育成

5 ウェルビーイングネットワークの活動や理念について所属の事業所でどのように展開されましたか（当てはまるところ全てにチェック）



6 「⑤業務の取組の見直しをした」とご記入された方、具体的にはどのようなことでしょうか

- ・本人の想いを聴くために訪問時間やカンファレンスの時間を費やした
- ・患者さんの想いをカルテに記載する機会が増えた。
- ・日常業務の割り振り。
- ・自院の口腔機能低下症の患者様への検査・診断・リハビリテーションに管理栄養士による栄養サポートを加えました。

7 「その他」にチェックされた方は、具体的にはどのようなことでしょうか

- ・啓蒙活動
- ・資料の回覧
- ・参加促しと、理念の周知を伝えた。
- ・サービス機関連絡調整会議訪問部会へ研修参加の案内をした

8 参加してみて、ここをこうして欲しい、こうならよかった、こうだとありがたいなど意見
ご要望

- ・研修時のみ参加でしたが丁寧に教えてくれて感謝しかありません
- ・今年度、自分の部会の講習会に参加できなかったことはとても残念でした。 ケアネットを活用して部会の進捗を共有してくださったり、ZOOM を活用してくれた点は良かったです。
- ・研修会に向けて、部会の回数がもう少しあると、良いと思った。
- ・スケジュールがハードだとは思いました。 しかし、だからこそより協調性も強まったかとも思っています。
- ・活動がタイトであり活動するほうも参加するほうも大変であると感じる 毎月の参加は実務を行いながらは難しい
- ・なかなかつながることのない職種の方と同じテーマを2年かけて話し合うのはとても勉強になった。この取り組みは今後も続けることで、豊田市みよし市の医療介護が発展していくと思います。もっといろいろな方(市役所関係.民生委員、学校関係者とか)が参加できるといいなと思いました。
- ・部会議の日程を増やしてほしい。
- ・介護施設や総合病院で働くスタッフや一般市民の方にも参加できるようにして欲しい（介護熱心な家族様はとても興味があり参加したいと言われる方がみえました）
- ・部会ごとに反省会（ふりかえり会）みたいなものがあったもいいのかなとは思いました
- ・部会員それぞれお忙しい中参加されていますが、もう少し話し合う時間が多ければ良かったと感じました。
- ・取り組みの成果を学会や論文発表し情報発信できると良いと思います。
- ・継続して、地域全体への更なる周知を促す。
- ・これからはより若い歯科医師が参加するように歯科医師会でスカウティングに努めます。

- ・1年ごとに研修会の開催が必要なので、どうしても実施可能なテーマで議論をしていました。ウェルビーイングネットワークの中長期展望があると、未来へ向けた議論に発展できると思います。
- ・次年度もよろしくお願いします。
- ・本人の思いに寄り添って支援することの大切さの中に、支援者の揺れる思いや、見立てを深めれば深めるほど支援者の視点が強くなる恐れなど事例の中でふれることができれば、より気づきのある研修につながるのではと思いました。毎回の部会の開催や研修の企画運営などお疲れさまでした。
- ・より良い研修を企画するために研修準備が足りなくなる事がありますが、部会員が集まったり、準備作業をする事にも限界がある点に難しさを感じています。
- ・正直に書かせていただきますが、一般の何もなただ一職員の病院の管理栄養士が参加させて頂き良い経験をさせて頂いたと感謝しています。しかし、奥が深く未だに参加していてよいのかと敷居がたかいのも現状です。

